

第6次佐川町総合計画

素案

令和8年3月
佐川町

【目次】

第1部 序論

第1章 総合計画策定に当たって 2

| | | |
|-----|---------|---|
| 第1節 | 計画策定の趣旨 | 2 |
| 第2節 | 計画の構成 | 3 |
| 第3節 | 時代の潮流 | 5 |

第2章 佐川町の姿 7

| | | |
|-----|--------|----|
| 第1節 | 佐川町の現況 | 7 |
| 第2節 | 町民の声 | 16 |
| 第3節 | 総括 | 30 |

第2部 基本構想

第1章 佐川町の未来像 35

| | | |
|-----|------------|----|
| 第1節 | 佐川町の目指す未来像 | 35 |
| 第2節 | 佐川町の人口ビジョン | 36 |

第2章 未来を実現する政策方針 37

| | | |
|-----|----------|----|
| 第1節 | 基本方針 | 37 |
| 第2節 | 分野毎の政策方針 | 38 |

第3部 基本計画

第1章 分野別の施策体系図 40

第2章 施策の内容 41

| | | |
|-----|-------|----|
| 分野1 | 教育 | 41 |
| 分野2 | 健康・福祉 | 43 |
| 分野3 | 産業・観光 | 46 |
| 分野4 | 安全・安心 | 49 |
| 分野5 | まちづくり | 51 |
| 分野6 | 行財政 | 53 |

第Ⅰ部 序論

第Ⅰ章 総合計画策定に当たって

第Ⅰ節 計画策定の趣旨

佐川町では、平成28（2016）年4月に「第5次佐川町総合計画」（以下、「前計画」といいます。）を策定し、「チームさかわ まじめに、おもしろく。」を未来像に掲げ、様々な施策・事業に取り組んできました。これまで、教育・福祉・産業・まちづくり等の幅広い分野で着実に成果を上げてきた一方で、佐川町を取り巻く社会環境は大きく変化し、新たな課題にも直面しています。人口減少と少子高齢化は着実に進行しており、若年層の流出や出生数の減少により、地域の担い手不足や経済活動の縮小が懸念されています。また、自然災害への備え、急速に進展するデジタル社会への対応、多様な人々が共に生きる社会の実現などの新たな課題へ対応が求められています。これらの変化に的確かつ柔軟に対応し、町民の皆様がより幸せで充実した暮らしを送ることができるように、住民・地域・行政など、本町に関わるすべての人が未来像を共有し、協働によるまちづくりを進めていくことが重要です。

佐川町には「人の温かさ」や「住みやすさ」を評価する声が多く、多世代が交流し、支え合う地域コミュニティが根づいています。こうした地域の強みを活かし、自然と文化、学びと人のつながりが調和するまちとして、これまで培ってきた地域の力を未来へとつなぎ、人口減少社会においても活力と誇りを持ち続けられる、持続可能なまちの実現を目指し、「第6次佐川町総合計画」（以下、「本計画」といいます。）を策定します。

第2節 計画の構成

(1) 計画の構成

本計画は、「基本構想」と「基本計画」の2つで構成されます。

基本構想

- まちの未来像や未来像を実現するための基本的な考え方を示すものです。

基本計画

- 基本構想を実現するための方策を示しています。
- 各分野の「成果指標」「施策」「取組内容」等を示します。

(2) 計画の期間

本計画の目標年度は、令和17（2035）年度とします。

本計画の基本構想及び基本計画の計画期間は、令和8（2026）年度から令和17（2035）年度の10年間とします。



(3) 基礎調査に基づく課題抽出

本計画を策定するに当たって、近年の佐川町を取り巻く社会・経済環境の動向を探るとともに、アンケート調査やワークショップによる町民ニーズの把握や前計画の検証等により、主な課題の抽出を行いました。各調査の概要は次のとおりです。

①統計データ分析

国勢調査等の様々な統計データから、佐川町の現状を分析・把握しました。

②施策評価

前計画の取組等について、定性的及び定量的な評価をしました。

③団体調査

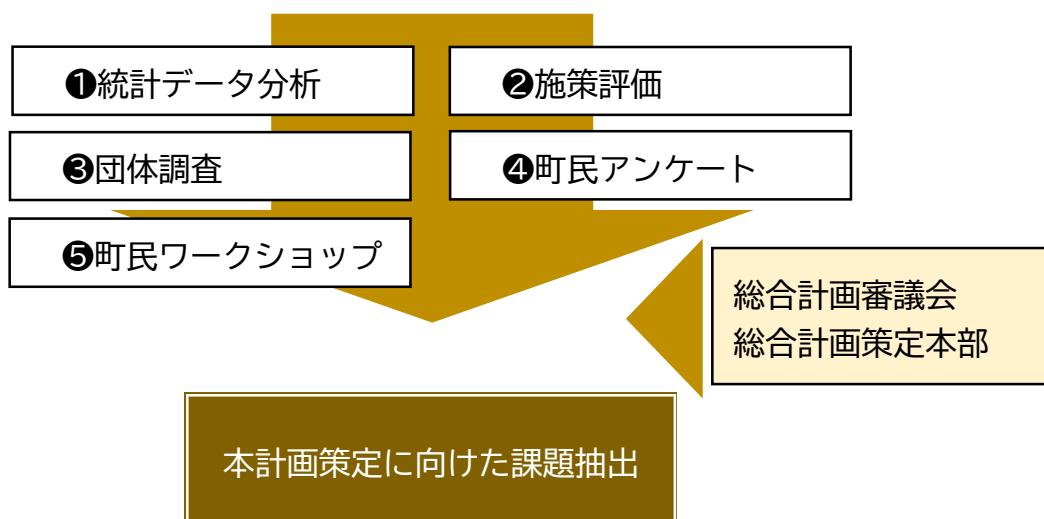
佐川町に関連する団体や組織が抱える問題等を整理しました。

④町民アンケート

18歳以上の町民と中高生を対象に、アンケートによる町民ニーズやまちのイメージを把握しました。

⑤町民ワークショップ

現在の暮らしで感じていることや、今後のまちづくりに必要だと思うことについて町民に話し合っていただき、その結果を整理・把握しました。



第3節 時代の潮流

（1）少子高齢化と人口減少社会

我が国の傾向と同様に、佐川町でも総人口は減少しており、令和2（2020）年時点の高齢化率は41.0%と、少子高齢化が進行しています。地方では、若年層の町外流出や出生数の減少により、地域産業の担い手が減少し、集落機能の維持が難しくなっています。この傾向は佐川町でも同様で、医療・福祉サービスの需要は増加しており、高齢化に対応した生活支援や移動手段の確保等、暮らしを支える体制の整備や、限られた人材の中で地域を支え合う取組が求められます。

（2）国を挙げた地方創生の取組

国は、地方創生の推進に向けて各種戦略を策定し、地域の活性化を図っています。佐川町においても、農林業の高付加価値化や観光振興、移住・定住の促進等に取り組み、地方創生への対応を進めています。今後は、国の動向を注視しながら、新たな技術を活用して地域資源を磨き、日常生活に必要なサービスの維持向上と、誰もが安心して暮らせる豊かな地域社会の実現を目指していくことが求められます。

（3）生活様式や価値観の多様化

時代の変化により、価値観やライフスタイルは多様化し、物の豊かさより心の豊かさが重視されるようになっています。一人ひとりの自由な考え方や個性が尊重される社会へと転換が進む一方で、人とのつながりが希薄化する問題もあります。少子高齢化や核家族化の中で、地域コミュニティを支え、多様な生き方や働き方を可能にする環境づくりが求められています。

（4）誰もが活躍し、互いを尊重する社会

子どもから高齢者、障がいのある方、性的マイノリティ、外国人住民など、あらゆる人が互いを尊重しながら、役割や生きがいを持って暮らせる環境づくりが重要です。佐川町においても、子育てや介護との両立支援、ハラスメント防止、人権尊重の取組、多文化共生の推進など、すべての人が安心して暮らせる地域社会の形成が求められています。

(5) 環境問題の深刻化と脱炭素社会に向けた取組

地球温暖化に伴う気候変動など、地球規模での環境問題が深刻化する中、環境への意識も高まっています。国は、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする「カーボンニュートラル」の実現を目指しており、地方自治体や企業、一人ひとりが、環境に配慮した脱炭素社会の実現に向けて取り組むことが求められています。佐川町では、ゼロカーボンシティ宣言を行い、脱炭素・循環型社会の実現に向けた取組を進めています。

(6) 災害への備え

近年、大規模地震や集中豪雨などの自然災害により、全国各地で甚大な被害が発生しています。また、近い将来、高い確率で発生が予測される南海トラフ地震などに備え、防災・減災対策の重要性も一層高まっています。佐川町では、ほぼ全地区で自主防災組織が整備され、防災体制の基盤づくりが進められてきました。今後も、災害に強いまちづくりに向けて、町民の防災意識の向上や避難体制の整備など、地域ぐるみで災害に備える取組を進めていくことが求められます。

(7) 社会資本の維持管理や更新

全国的に、高度経済成長期に集中的に整備された公共施設や道路、橋、水道などの社会資本が、一斉に更新時期を迎えつつあります。佐川町でも、今後、老朽化の進行に伴い、修繕や更新にかかる経費が大きな負担となることが想定されることから、人口減少などによる将来需要の変化を踏まえ、長期的な視点で計画的に維持管理を進めていくことが求められています。

(8) デジタル技術の活用

IoTやAI、ビッグデータなどのICTの進展により、人々の生活や地域サービスが大きく変わっています。国では、誰も取り残されず、自分に合ったサービスを利用できる社会を目指しています。地方自治体でも、行政手続きの電子化や住民サービスの利便性向上に活用するとともに、社会課題の解決や新たな価値創造を進めるDX(デジタルトランスフォーメーション)の取組が求められています。

第2章 佐川町の姿

第1節 佐川町の現況

(1) 位置・地勢

佐川町は、高知県中西部に位置し、高知市から約27km、車でおよそ1時間の距離にあります。総面積は約101km²で、越知町、津野町、須崎市、土佐市、日高村の5市町村に囲まれています。県都高知市と愛媛県を結ぶ国道33号と、山間部と太平洋側を結ぶ国道494号、JR土讃線が交わる交通の要所でもあります。高知北地域3町の中では最大の人口と財政規模を有し、高知市などの都市部への人口流出を食い止めるダムの役割を果たす地域と位置づけられています。

自然に目を向けると、虚空蔵山(674.7m)、蟠蛇森(796.2m)等の山々に囲まれた盆地状の地形が広がり、町内を源流とする柳瀬川が北へ流れて仁淀川に合流します。温暖多雨な気候ですが、冬季にはしばしば降雪も見られ、春や秋には靄が立ち込めることもあります。桜の名所としても知られ、四季折々の草花が町を彩り、豊かな自然環境が広がっています。こうした豊かな自然は、世界的な植物分類学者・牧野富太郎博士を育んだ背景にもなっています。

また、およそ140年前、日本地質学の創始者と言われたドイツの地質学者エドモンド・ナウマンが佐川を訪れ、佐川が古生代から中生代にわたっての幅広い時代の地層が至るところに露出し、世界的に貴重な化石も産出されることから、地質学上とても重要な地であることを世界に紹介し、「地質のメッカ」としても知られるようになりました。



(2) 歴史

佐川の歴史は古く、不動ガ岩屋洞窟より出土した土器から、縄文時代草創期にはすでに人々の生活が営まれていたことが分かっています。文献で佐川の歴史が確認できるのは、南北朝動乱の時代になりますが、数カ所の遺跡や窯跡などからは、律令制度に組み込まれていく様子がうかがえ、仏像などの文化財からも当時の文化が佐川にもたらされていたことが分かります。

中世を経て、戦国時代（1467～1590年）に入り、後に土佐国を統一した長宗我部元親の重臣・久武親信が1573年、古城山に居城を移し佐川城としました。久武親信没後1603年には、関ヶ原の勲功により徳川家康から土佐20万余石を賜った山内一豊に伴い入国した山内家の首席家老・深尾和泉守重良が、佐川1万石を預かることになります。以来10代270年間、明治維新に至るまで、その城下町である佐川には封建文化が花開きました。当時の文化的影響は、現在の佐川町にも色濃く残り、酒蔵を中心とした一帯の街並みや、名教館など文化・教育に重きを置く風土が築かれました。その環境は、明治維新期には田中光顕（1843～1939年）をはじめ多くの志士を輩出し、牧野富太郎博士（1862～1957年）をはじめ、植物学、文学、芸術などあらゆる分野で多くの「文教人」を生み出してきました。

また、佐川町は、昭和29年に町村合併促進法の施行により、旧佐川町、斗賀野村、尾川村、黒岩村が合併し、さらに昭和30年に加茂村の一部を合併し発足、昭和33年の境界変更を経て、現在に至っています。

(3) 地域

現在の佐川町は、旧町村の区域に基づき、佐川、斗賀野、尾川、黒岩、加茂の5つの地区があります。

佐川地区は、行政や商業、そして観光の拠点として町の中核を担い、文化・教育施設も集まる地域です。なかでも佐川の中心部に位置する上町は、江戸時代に土佐藩の筆頭家老・深尾氏の城下町として栄え、今も、伝統的な商家住宅や酒蔵などが街並みを形成し、藩政時代の風情をいまに伝えています。

斗賀野地区は、緑豊かな農村地帯です。広がる田園風景の中で、お米やショウガ、ニラなどの農産物の生産が盛んに行われています。地域を見下ろす虚空蔵山からは太平洋を一望でき、ハイキングや神秘的な滝の散策、天文台での星空観察など、自然と親しむことができます。

尾川地区は、急峻な地形の中に昔ながらの生活風景が残り、自然と人の営みが調和した美しい景観を誇る地域です。地区を流れる尾川川は、仁淀川の支流で、水質が高く透明度の高い清流として知られています。

黒岩地区は、山に囲まれた盆地状の地形で、昼夜の寒暖差が大きく、お茶や果樹の栽培に適した地域です。中でも特産の新高梨をはじめ、イチゴや茶の生産が盛んです。

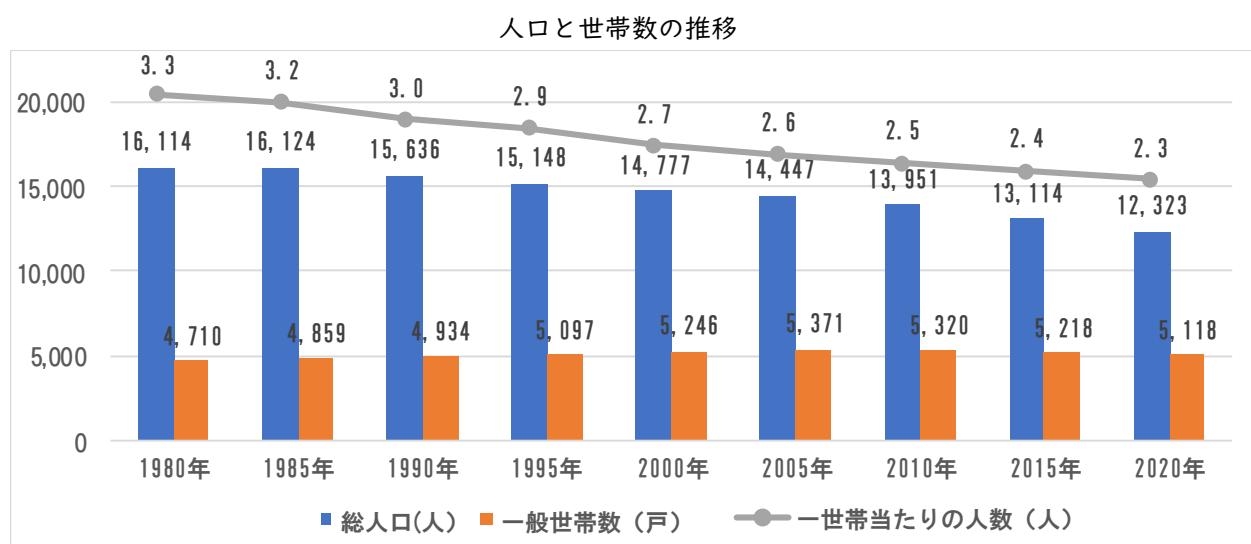
加茂地区は、佐川町の玄関口として、もっとも高知市寄りに位置し、まきのさんの道の駅・さかわや佐川おもちゃ美術館などの観光施設が整備されています。また、牧野富太郎博士が愛したバイカオウレンの群生地があり、自然豊かな地域として知られています。

これら5地区では、それぞれの特色を活かしながら、集落活動センターやあったかふれあいセンターを中心に、町民の交流が活発に行われています。それぞれの形で地域のつながりを大切にしながら、町民主体によるまちづくりが進められ、多世代が支え合う温かい地域社会の形成に向けた取組が広がっています。

(4) 人口

①人口推移

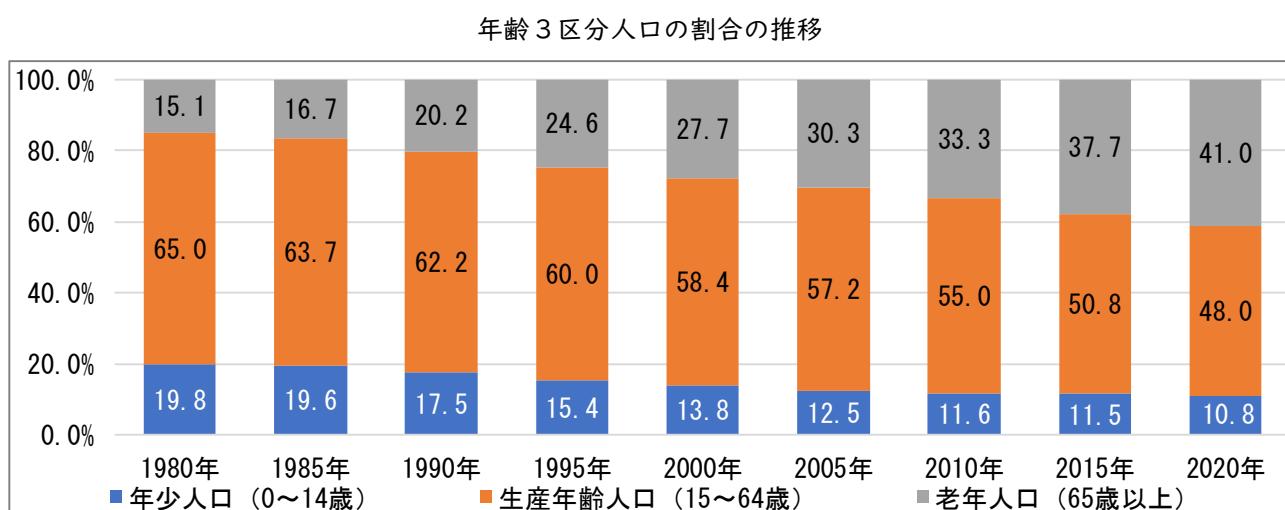
総人口は、昭和 60 (1985) 年から減少傾向で推移しており、令和 2 (2020) 年には 12,323 人となっています。一般世帯数は、平成 17 (2005) 年から、一世帯当たりの人数は、昭和 55 (1980) 年から減少傾向です。人口減少とともに世帯規模が縮小し、核家族化や単身世帯の増加が進んでいる様子がうかがえます。



出典：総務省「国勢調査」

②年齢3区分別人口の割合

年齢3区分別人口でみると、昭和 55 (1980) 年から令和 2 (2020) 年までの 40 年間で、年少人口は 19.8% から 10.8% へと 9 ポイント減少、生産年齢人口は 65.0% から 48.0% へと 17 ポイント減少しているのに対し、老人人口は 15.1% から 41.0% へと 25.9 ポイント増加しています。

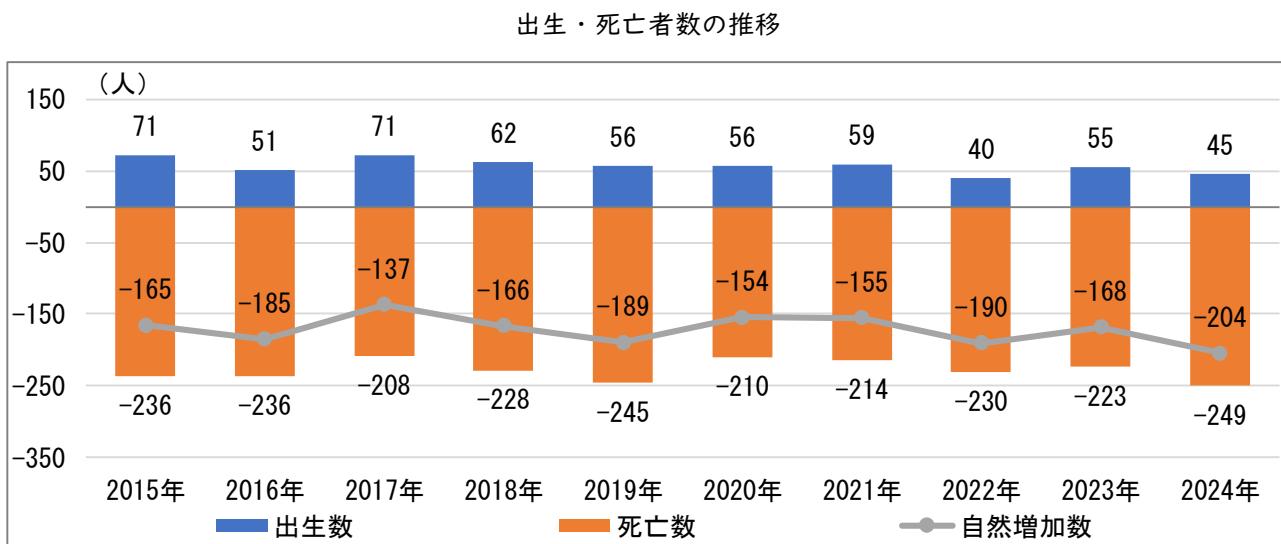


出典：総務省「国勢調査」

(5) 人口動態

①自然動態

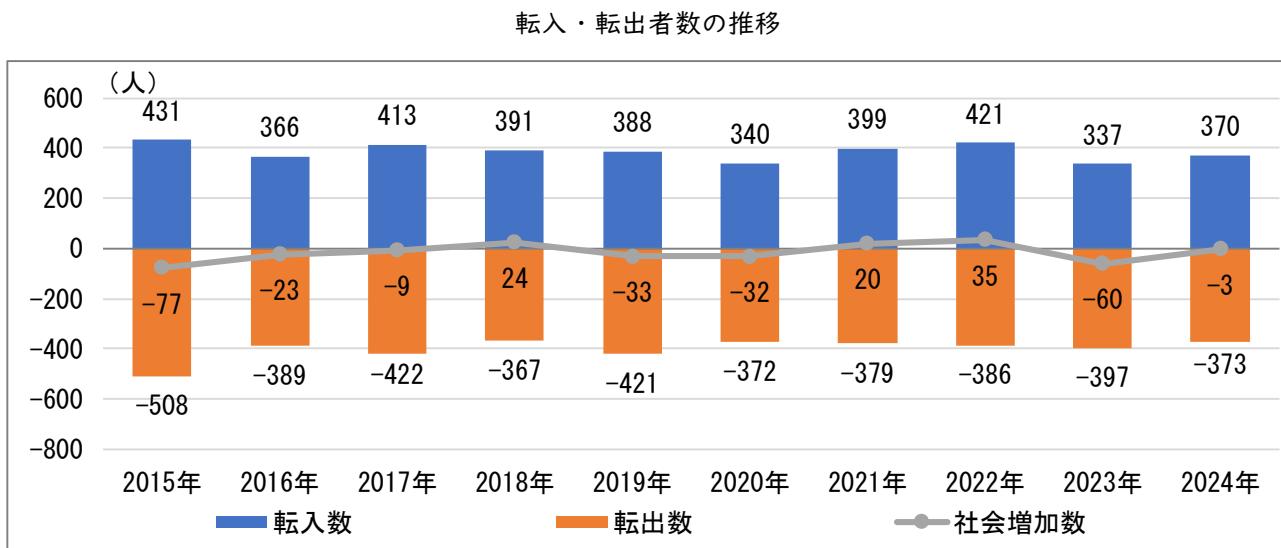
佐川町の出生数は、平成 27 (2015) 年から 40~70 人程度で推移し、死亡数は 200 人以上で推移しています。その結果、自然増減数（出生数－死亡数）は平成 27 (2015) 年から一貫して減少し、減少幅は 130~200 人前後で推移しています。



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

②社会動態

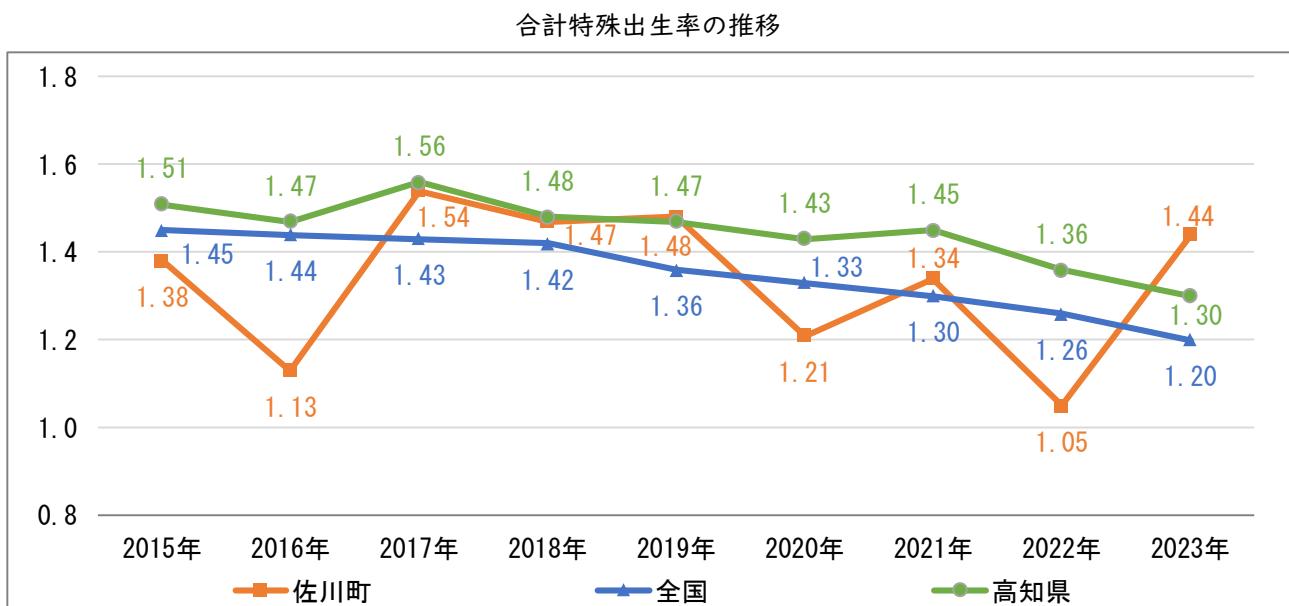
転入者と転出者の推移は、年によってバラつきがあります。コロナ禍においては、転入者が転出者を上回る社会増でしたが、コロナ終息後の令和 5 (2023) 年からは再び転出者が転入者を上回る社会減となっています。



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

③合計特殊出生率

合計特殊出生率は平成 27 (2015) ~令和 5 (2023) 年の間で 1.05~1.54 の範囲で推移しており、年によって大きく変動しています。令和 4 (2022) 年には 1.05 と低下しましたが、翌年には 1.44 まで回復しており、単年の要因による影響が大きいと考えられます。



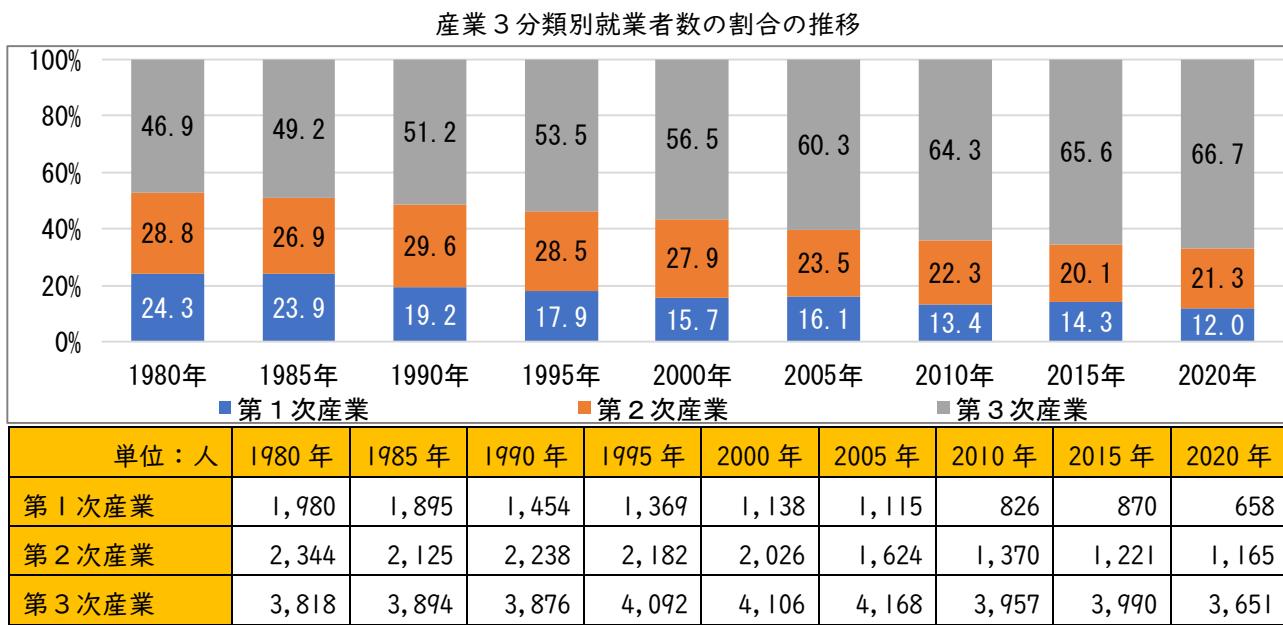
出典：厚生労働省「人口動態統計特殊報告」・高知県

合計特殊出生率：15 歳から 49 歳までの女性が一生のうちに産む子どもの平均数を示す指標

(6) 産業

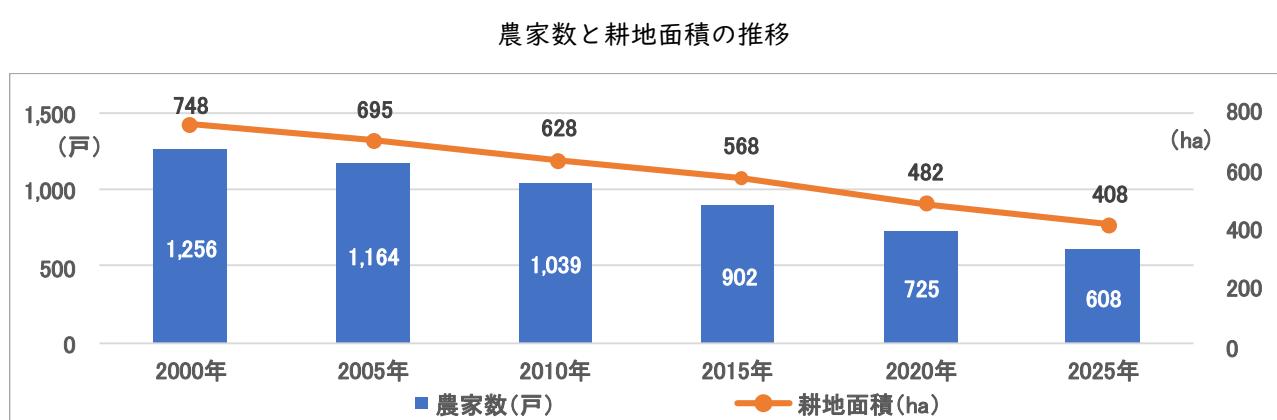
①就業者数

産業3分類別就業者の構成比は、第1次産業・第2次産業は増減を繰り返しながら減少傾向にある一方、第3次産業は増加傾向で推移しており、昭和55(1980)年の46.9%から令和2(2020)年には66.7%と、19.8ポイント増加しています。



②農業

佐川町の農家数は、平成12(2000)年の1,256戸から令和7(2025)年には608戸へと減少しています。耕地面積も同期間に748haから408haへと縮小しており、農家の減少とともに離農の進行がうかがえます。

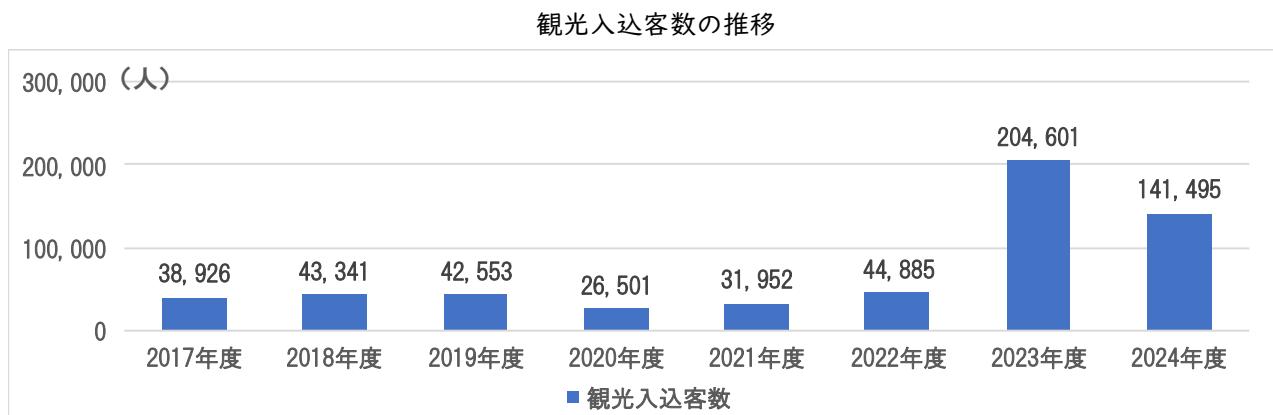


※農家数は「経営耕地のある農家数」、耕地面積は「経営耕地面積」です。

出典：農林水産省「農林業センサス」

③観光

令和2（2020）年度は新型コロナウイルス感染症の影響で観光入込客数は3万人を切りましたが、令和4（2022）年度には令和元年以前を超えるまでに回復し、令和5（2023）年度にはテレビドラマや道の駅の開業の効果もあって、20万人を超える観光入込客数が訪れました。令和6（2024）年度も14万人を超える水準を維持しています。

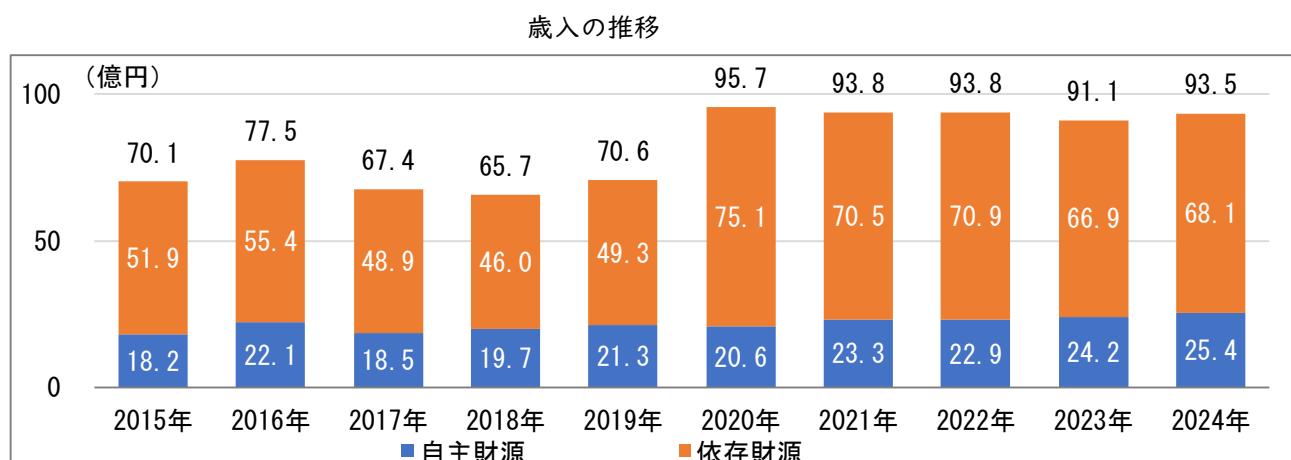


出典：佐川町調べ

（7）財政

①歳入

歳入は概ね安定して推移しています。令和2（2020）年度以降は、新型コロナウイルス感染症や物価高騰関連の経費により歳入総額も増加しています。また、自主財源の比率が低く依存財源の比率が高いいため、国の方針や社会情勢の影響を受けやすく、変動に対応できるよう財政調整基金や特定目的基金の活用など、健全な財政運営に努める必要があります。



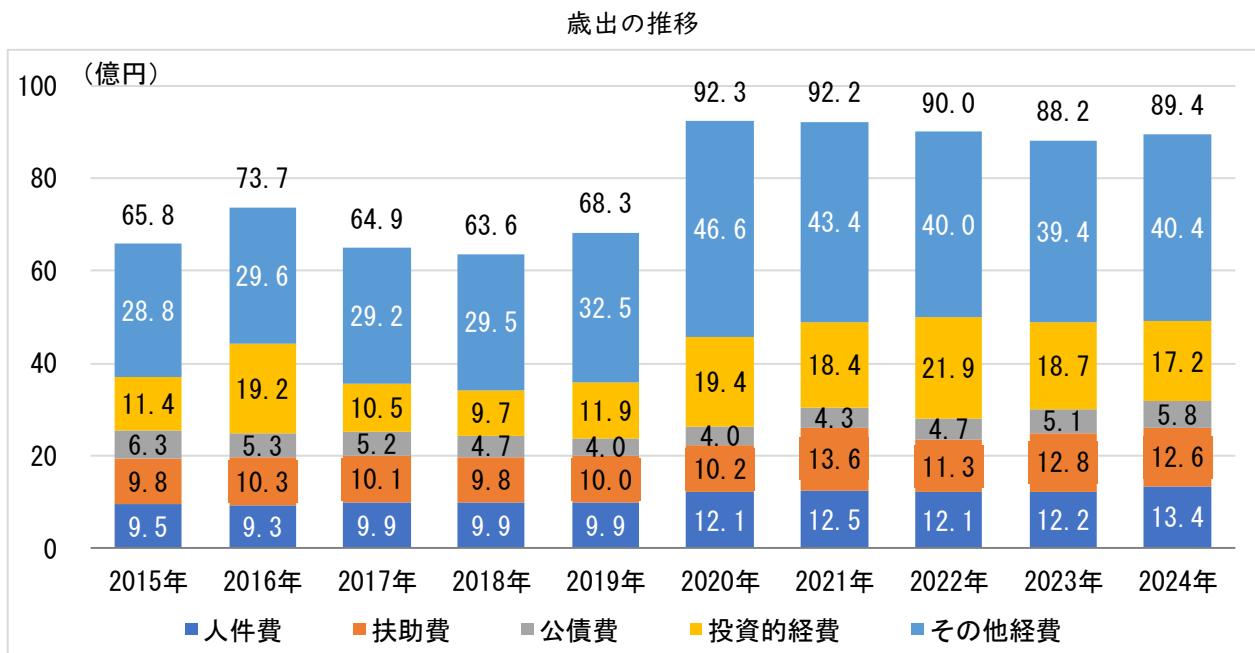
出典：決算統計

依存財源：国や県から交付されたり、補助されたりする財源（地方交付税、国庫・県支出金など）のこと

自主財源：町税（住民税や固定資産税など）や公共施設の使用料など、町で集めることのできる財源のこと

②歳出

令和2（2020）年度以降は、新型コロナウイルス感染症や物価高騰への対応により、その他経費が増加しています。また、道の駅や図書館の建設などに伴い、投資的経費も増えています。今後、高齢化の進展に伴い、扶助費などの義務的経費も増加することが見込まれます。



出典：決算統計

義務的経費：人件費、扶助費、公債費など、支出が義務付けられており、任意に削減できない経費のこと

投資的経費：道路、橋りょう、学校、公園など公共施設整備やインフラ更新に要する経費のこと

その他経費：物件費、維持補修費、補助費等に要する費用のこと

公債費：町債の元金や利子の償還金のこと

扶助費：社会保障制度の一環として、生活困窮者、児童、障がい者等を援助するために必要な経費

第2節 町民の声

(1) アンケート調査の概要

本計画の策定に当たり、町民の皆様の日常生活における実情や感じている課題、今後佐川町に期待すること等の把握を目的に、アンケート調査を実施しました。

①町民アンケート（18歳以上の町民）

調査対象者：佐川町在住の町民 1,000 名

調査方法：郵送配布・郵送回収及び WEB 回答

調査期間：令和 6（2024）年 11 月 30 日から令和 7（2025）年 1 月 7 日

有効回答数：439 件（回収率 43.9%）

②次世代アンケート（中高生）

調査対象者：佐川町内 3 中学校、佐川町在住の高校生世代 430 名

調査方法：中学生：学校配布・WEB 回収

高校生世代：郵送配布・WEB 回収

調査期間：令和 6（2024）年 11 月 30 日から令和 6（2024）年 12 月 31 日

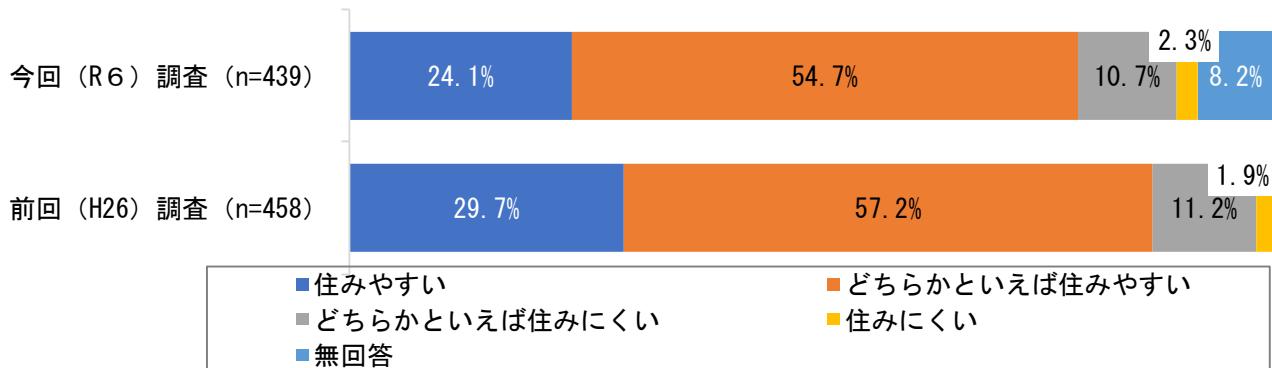
有効回答数：289 件（回収率 67.2%）

(2) 調査結果の概要

①町民アンケート（18歳以上の町民）

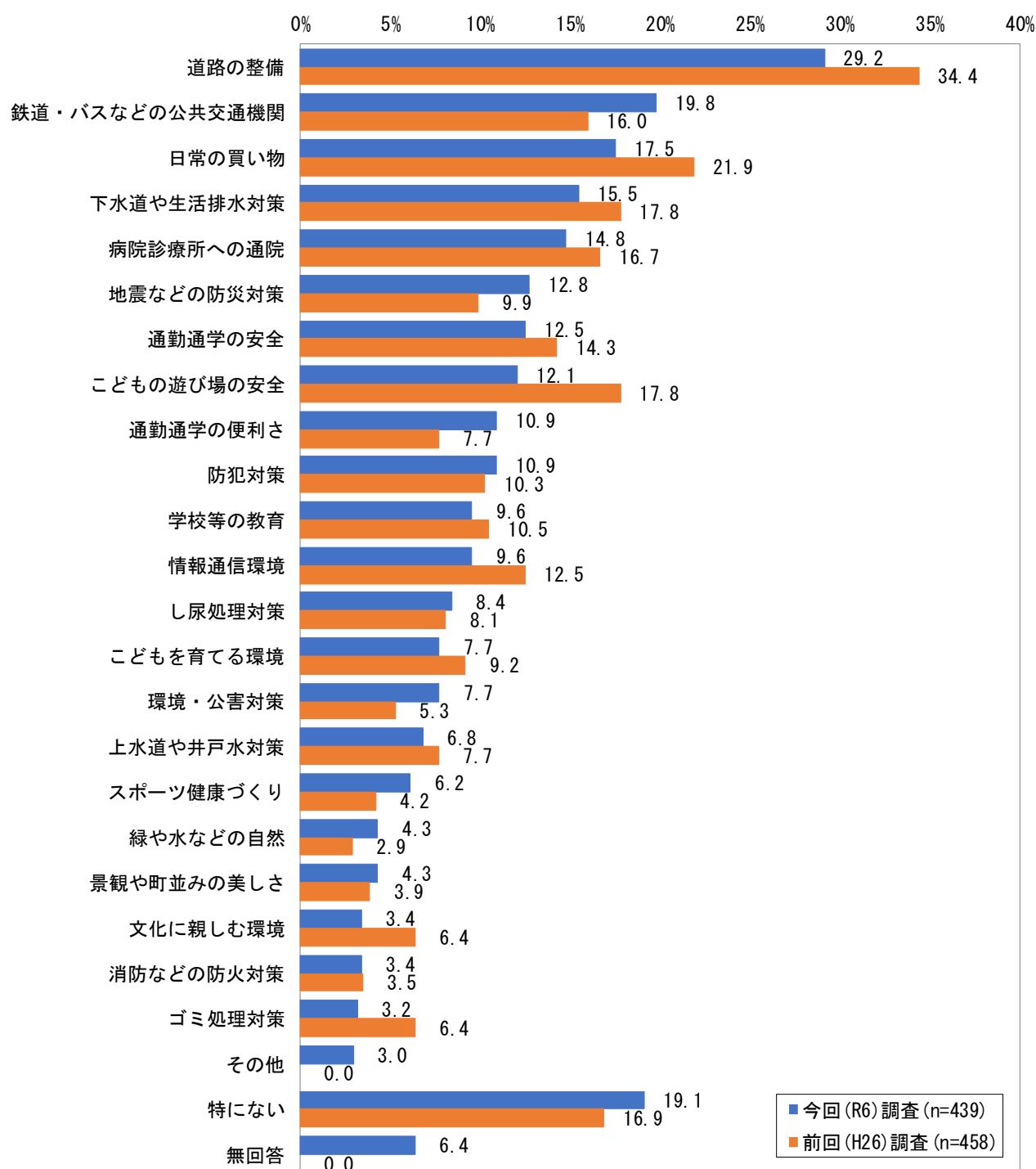
ア 佐川町の住み心地について

「どちらかといえば住みやすい」が 54.7% と最も高く、「住みやすい」が 24.1%、「どちらかといえば住みにくい」が 10.7% と続いています。「どちらかといえば住みやすい」と「住みやすい」を合わせた『佐川町は住みやすい』は 78.8% となっています。前回調査（平成 26（2014）年実施）と比べ、『佐川町は住みやすい』は、8.1 ポイント減少しました。

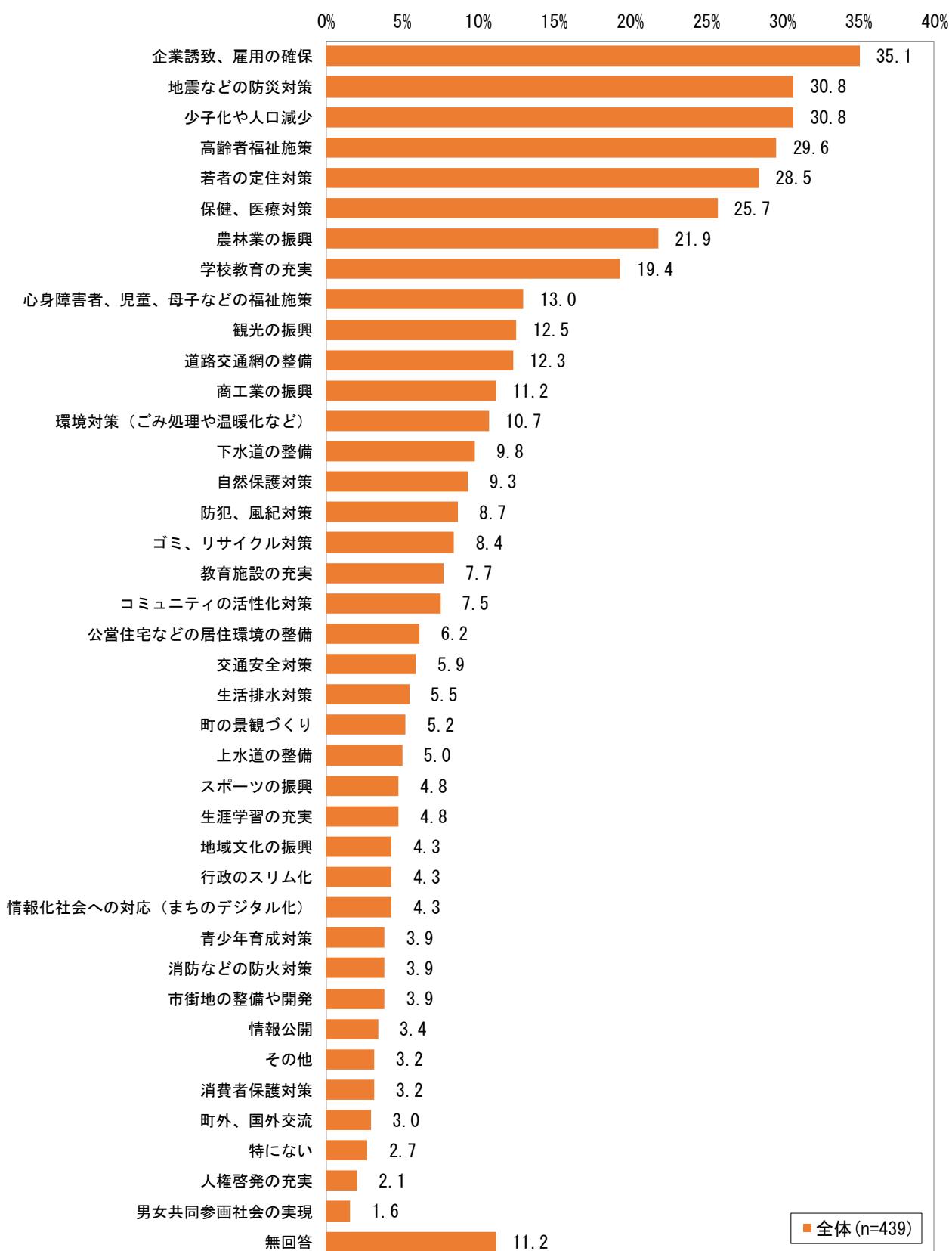


イ 地区の生活環境で不満があることについて

「道路の整備」が29.2%と最も高く、「鉄道・バスなどの公共交通機関」が19.8%、「日常の買い物」が17.5%と続いています。



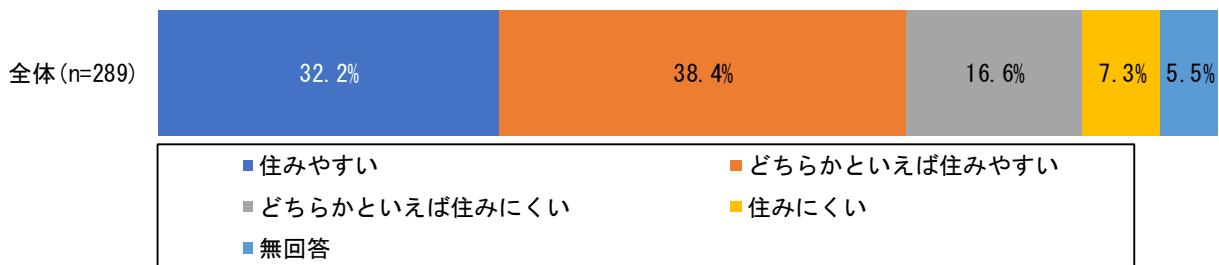
- ウ 今後10年間で、佐川町はどのような分野に特に力を入れるべきかについて
「企業誘致、雇用の確保」が35.1%と最も高く、「少子化や人口減少」と「地震などの防
災対策」が、それぞれ30.8%と続いています。
雇用の確保や人口減少対策など、地域の発展と持続を重視するとともに、防災や高齢者福
祉、医療など安心して暮らせる環境づくりを求めていることがうかがえます。



②次世代アンケート（中高生）

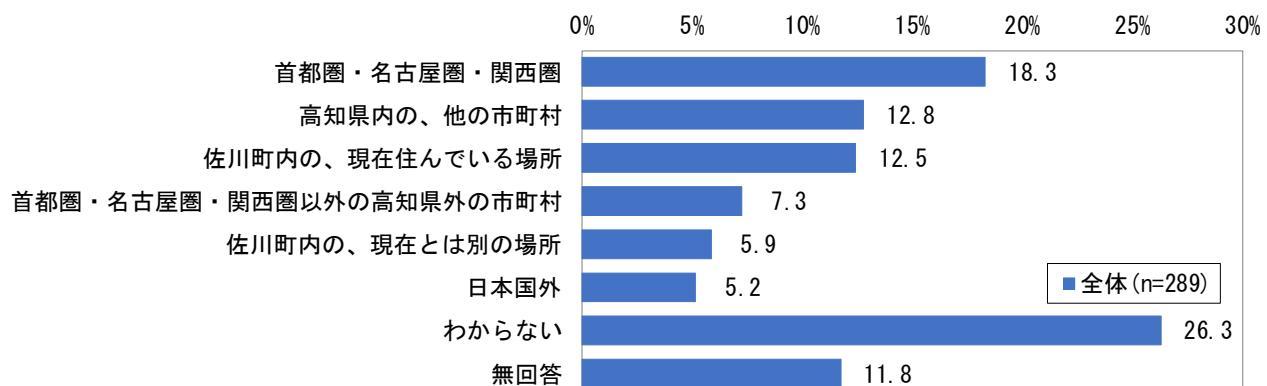
ア 佐川町の住み心地について

「どちらかといえば住みやすい」が38.4%と最も高く、「住みやすい」が32.2%、「どちらかといえば住みにくい」が16.6%と続いています。「どちらかといえば住みやすい」と「住みやすい」を合わせた『佐川町は住みやすい』は70.6%となっています。



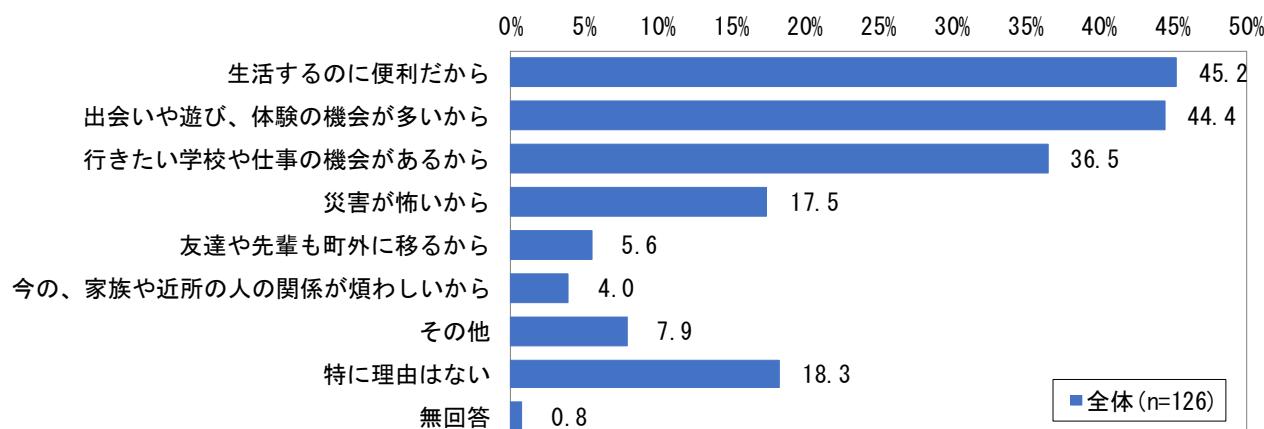
イ 10年後、どこに住んでいたいと思うかについて

「わからない」が26.3%と最も高く、「首都圏・名古屋圏・関西圏」が18.3%、「高知県内の、他の市町村」が12.8%と続いています。



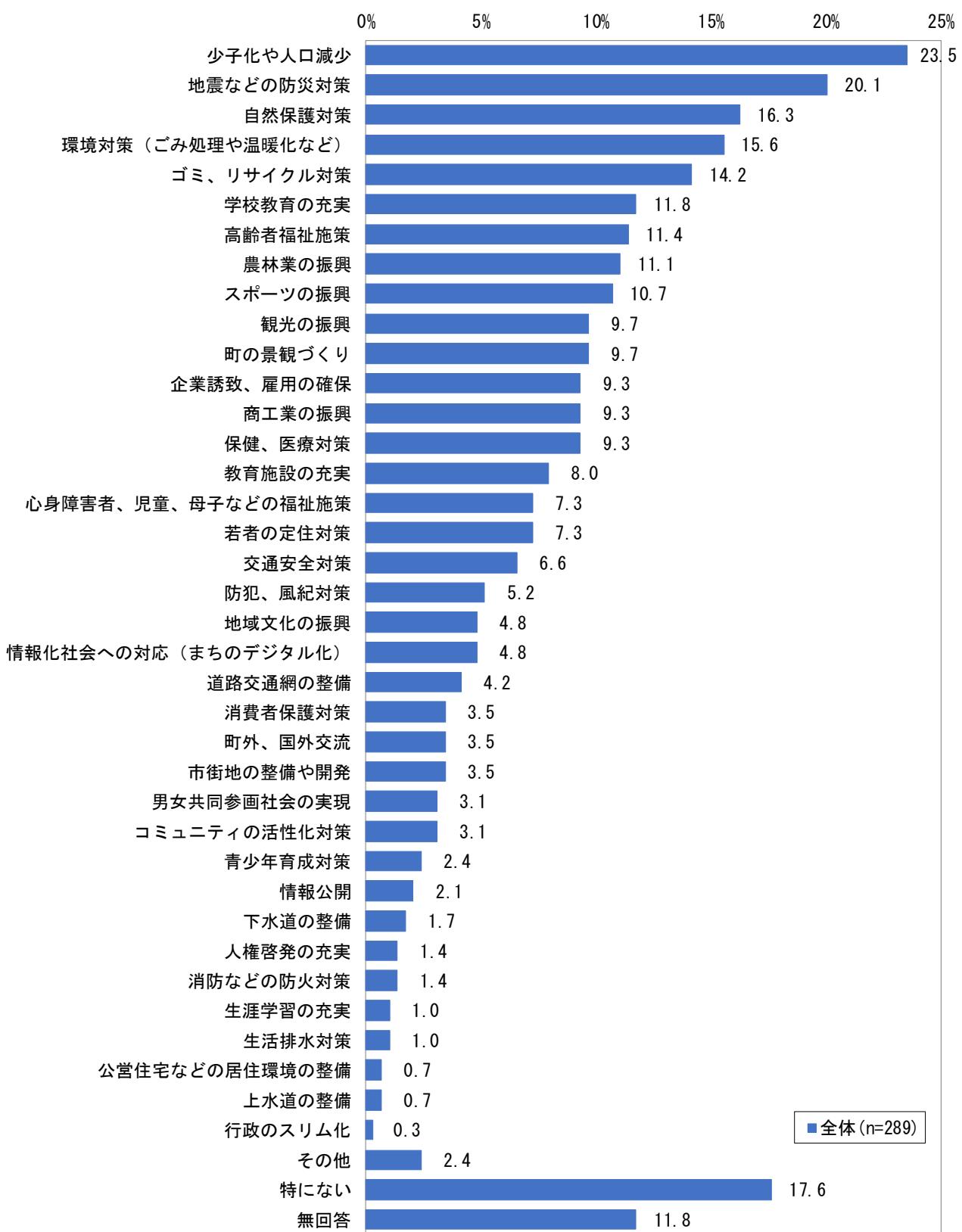
ウ 10年後は佐川町外に住んでいたいと思う理由について（前ページ「イ」で、「高知県内の、他の市町村」「首都圏・名古屋圏・関西圏」「首都圏・名古屋圏・関西圏以外の高知県外の市町村」「日本国外」と回答した方への質問）

「生活するのに便利だから」が45.2%と最も高く、「出会いや遊び、体験の機会が多いから」が44.4%、「行きたい学校や仕事の機会があるから」が36.5%と続いています。



エ 今後10年間で、佐川町はどのような分野に特に力を入れるべきだと思うかについて

「少子化や人口減少」が23.5%と最も高く、「地震などの防災対策」が20.1%、「自然保護対策」が16.3%と続いています。



(3) 町民ワークショップ

町民の意見を広く聴取し、計画策定に反映させることを目的として、これから佐川町の将来像やまちづくりの方向性について意見交換を行う町民ワークショップを開催しました。

| | |
|-----|--|
| 第1回 | 「この10年の振り返り」現在の暮らしで感じていること、今後のまちづくりに必要だと思うこと 佐川 参加者数：18名 斗賀野 参加者数：24名 尾川 参加者数：24名 黒岩 参加者数：24名 加茂 参加者数：17名 参加者合計：107名 |
| 第2回 | 「この地区での今後10年」について 佐川 参加者数：10名 斗賀野 参加者数：28名 尾川 参加者数：10名 黒岩 参加者数：11名 加茂 参加者数：10名 参加者合計：69名 |

佐川

現在の暮らしで感じていること、今後のまちづくりに必要だと思うこと

【産業】

- ・回りの田んぼの耕作放棄地が増えた
- ・農業の担い手が減っている
- ・後継者があまりいない
- ・草を刈れる人が高齢化 　・草刈りの講習会実施
- ・商店が少しづつ減ってきている
- ・観光客からお金が落ちていない
- ・経済に詳しい人と専門の勉強を行政も住民もする
- ・人材を育てる（後継者）

【道の駅】

- ・公園は安全で楽しい、遊べる
- ・道の駅ができてよかった、人が集まる
- ・歩道がない、歩行者・自転車などで行くと危険
- ・美術館の地元へ優待券発行
- ・芝生広場にてイベントをしてほしい

【若者の定住・移住者を増やす】

- ・自然豊かで都会の人が暮らしたくなる
- ・地域おこし協力隊の人が定住してくれている
- ・ふるさと教育で住み続けたいと思う子が増えたのはすごい
- ・高知にリターンを考えたとき佐川に住みたいと思ってここに来た
- ・車がなくても住める文化的な町が魅力的
- ・都会よりお給料が低い、生活水準を落としたくない、老後は帰ってきたい
- ・ランチができるお店があると良い（まきの公園の周辺にあると良い）
- ・空き家、空き店舗でお店を開くミッションの協力隊がいたらよい

この地区での今後10年」について考える

『林業や農業などの緑の仕事を広げ活性化させることによって、佐川の特産品ができるとともに、働く場所を増やすという課題が解決し、人が育つ豊かな佐川町になっている』

- ・企業を誘致して一次産業から加工、販売まで見直す
- ・特産品づくり
- ・新規就農者支援
- ・グループで農業をやって、機械の導入などの経費削減
- ・林業について国外輸出も視野に入れる

『佐川高校の進路保障の充実、魅力化で若者流出の課題が解決され、空き家の管理対策で佐川町独自の制度をつくることにより、移住者が増え、農業法人をつくり、農業を産業として成り立たせることで地元の雇用を確保して、人口減少が緩やかになり足腰が強いすてきな町になっている！』

- ・コミュニティの再編
- ・地元の方向けにも空き家改修などの補助制度を！
- ・空き家改修のマッチング 　・外に出る人を減らす。出て行っても戻ってきてくれる
- ・時代に合った町独自の佐川産をつくる 　・お米やお茶・イチゴなど気候に合わせて品種改良する

【あつたか・集落活動センター】

- ・90歳代の利用者が多い、男性の利用者が多い
- ・買い物の送迎をしてくれるのでお年寄りも買い物に行ける
- ・若者交流会があり新しく入ってきた人と交流ができた
- ・地元の人が移住者に声をかけてくれる
- ・いろいろなアイディアが出てきて地域を良くする活動が増えた
- ・具合が悪くなった方の情報が入ってくる（目が行き届いている）
- ・自治会の弱体化⇒あつたかがカバーしてくれる

【SNS・広報】

- ・HPの中での調べものがしにくく
- ・LINEの登録者数が少ない。InstagramもFacebookももう少しフォロワーが多くてもいいのに
- ・良いこと（政策・SNS）をやっているのに広報が下手、もったいない
- ・もっと利便性を上げ、もっと良い情報を知らせる
- ・年に数回高齢者向けのLINEの使い方を教えてくれると良い

【地域・世代を超えた人のつながり】

- ・心地が良い、住みやすいところとみんなが言う
- ・雰囲気がいい、人を受け入れてくれる
- ・土台がある子ども「協力・地域・団結・地域性」がより高まった
- ・地区運動会5地区対抗、終わったら懇親会
- ・元気村20年継続してきた
- ・子どもから大人も学ぶ、新たな絆を深める
- ・次世代のつながり、時代の流れ、昔通りにはいかない
- ・地区敬老会・防災・焼き芋・昔あそび（保育園）
- ・バザール・七夕祭り・たらふく秋祭り・若者交流会etc
- ・後継者が不足、人材育成が必要
- ・移住してもらえるようにアピール
- ・外から人を呼び込むだけじゃなくて地域の人との密なつながり
- ・若い人に発信してもらえるようにイベントを盛り上げていく
- ・空き家があっても貸さない
- ・独居・高齢・認知の3点セットの家が増加中。見守りネットワークの再構築が必要
- ・自治会に入らない住民が増えた

この地区での今後10年について考える

『斗賀野アップデート大作戦！！』

『農業』『教育』『暮らし』のブラッシュアップ・チャレンジする人を応援するまち』

- ・農業で十分な収入を得られるようにする
- ・遊休農地を出さない・夢を語る場所をつくる
- ・起業家体験の実施（子ども向け）
- ・はちきん移住（女性が帰ってきたい環境にする）
- ・地域を盛り上げるイベント、交流人口を増やす

『子どもが戻ってこれるようなふるさとができる、斗賀野に住んで子どもを育てたい人が増え、高齢者の生きがいも見いだせるまち』

- ・もうける農業にしたい・農業支援の施策を！
- ・トピアに若い人が入るようにする
- ・おためし移住、農業
- ・農業、林業を観光につなげる

『地域活動に取り組んでいる元気な世代が子育て広場をつくることで、多世代がつながるきっかけとなり、縦のつながりが深まり課題について話して一緒に考える場につながることで、組織が存続、拡大され活動が活発になり、自分たちで問題解決に向かっていける斗賀野』

- ・楽しく活動して背中を見て学んでもらう
- ・農業、空き家など課題を一つずつ解決していく
- ・高齢者のシェアハウスがあると便利
- ・若者と集まれる場づくり、発言できる場所づくり

『ニーズに沿ったぐるぐるバスの運用で、あらゆる世代の利便性が上がり、なおかつ災害に強いまち』

- ・スポーツパーク、サッカー以外でも使えるといい
- ・ぐるぐるバスの利便性、ニーズを聴いて欲しい！！
- ・フェスをやる！イベントで横のつながり

尾川

現在の暮らしで感じていること、今後のまちづくりに必要だと思うこと

【健康と福祉（地域のつながり）】

- ・あったかの小学生の利用者増加中
- ・勉強を教えてくれるボランティアがいると良い
- ・尾川おどり第3土曜日伝承会をやっている
- ・桜祭りでウォークラリー健康促進
- ・おいぼ連隊員が増え公園がキレイになり子どもが遊びやすい
- ・末永く活動してほしい後継者を育てる

【ぐるぐるバス・移住者】

- ・バスがあるから免許を返納しようと考えられる
- ・乗るのも降りるのもバス停じゃないところで停車してほしい
- ・尾川はご近所づきあいが良くみんなやさしい
- ・若い人がここに住んで仕事ができるようにしたい
- ・移住者へ町からのサポート制度があると良い

【若者に移住してもらうために】

- ・家を貸してもらえない（荷物がそのまま片付けが大変、家が古くなってしまっている）
- ・協力隊の人が任期を終えた後に残ってしたい仕事がない
- ・中山間留学都会の子ども達を受け入れて短期間生活をする
- ・商店がない、少しの買い物がしにくく　・とくしまが週2回来ている

この地区での今後10年について考える

『子どもたちが地域を学び貢献し、充実した学校生活が送れる帰ってきたいまち』

- ・尾川中学校の魅力UP
- ・尾川小中と地区の方々との関わを増やす
- ・山村留学、宿舎（寮）世話役
- ・自然が沢山ある割に町まで近い（川遊び、山遊び）
- ・尾川地区に関する情報整理

『空き家対策で、交流人口、子育て世代の定住の増加、豊かな自然の中での子育て、農業やITの仕事ができる、明るく楽しい豊かな尾川』

- ・住む場所の基準が必要 ①駐車場 ②学校 ③職場への出勤方法
- ・片付けた方が得になる仕組み（民泊など）
- ・空き家で1泊2日で一年を通して農業体験
- ・トイレなどリノベーションする補助金
- ・田舎で周りに家がない、庭が広い、動物が飼える自由に使える



【農業振興】

- ・人手不足で荒れた土地を使えるようにするのは難しい
- ・人が減って農業をしなくなった
- ・個人でなく力を合わせて農業をしていく
- ・大人向けに農業体験ができるような環境づくりをする
- ・ブランド米などを作つてアピールする

【観光】

- ・くろいわスカイラインが再開発された
- ・ホタルがいるので観光資源にならないか
- ・町外（黒岩外）へ出ている人を呼び交流したい
- ・個人、団体（小・中・高生）での栽培管理や食育どうやってリンゴ・梨ができるか

【旧黒岩中学校】

- ・休校より、いっそ廃校にして使えるようにしてくれたら、いろいろ考えれるのに
- ・中学校の活用（コワーキングスペース・教室をジム・カフェ・プールで釣り堀・合宿所・シャワールーム・大浴場「黒岩の湯」etc）

【集落活動センター・あったかふれあいセンター】

- ・利用者同士が顔見知りになり輪が広がった
- ・集落活動センターで多くのイベントが開催できるようになった
- ・あったかふれあいセンターに来る利用者が元気になった
- ・子ども食堂ができた、流しそうめんが楽しかった
- ・厨房を使って料理や加工品を作るグループができた
- ・健康体操のような集まりがあるといいかも
- ・定期的に「ピザの日」をつくってみんなで集まる！
- ・お年寄りばかりでなく幅広い年代の人たちが集まるようになったらいい
- ・健康づくりを明るく楽しく誘う工夫があると良い
- ・あったかが子どもたちも集いやすく、成長につなが

この地区での今後10年について考える

『結婚できるまち、子育てしたいまち黒岩』

- ・男女の出会いがいっぱいのまち
- ・子育てしながら働くところ
- ・個々から働きに行ける場所があるといい
- ・もっと気軽に農業ができるといい
- ・作物を上手に作る方法を教えるといかん
- ・何回も黒岩に来てもらう仕組みをつくる

『農業を通していろいろな関わりができる人、仕事が増え、生活が安定している町』

- ・単発で農業ができる日雇いでいろんな仕事を体験できるような仕組み
- ・地元の人だけでは手が足りない、外国の方にも力になってもらう
- ・在宅でできる仕事、自然の中で仕事ができる
- ・作ったものに付加価値をつける、ブランド化して売る

『黒岩中学校を観光や移住相談の拠点にする。人を雇用することができ、施設の活用の仕方の課題が解決される。そして人の交流が増え子育て世代が定住できる黒岩』

- ・若い人や移住者の力を借りたい
- ・スポーツ合宿施設としての利用
- ・週に何回か決めてカフェみたいにする？
- ・よそには出せんけど黒岩に来たら食べれるもの
- ・大人向けに農業体験



加茂

現在の暮らしで感じていること、今後のまちづくりに必要だと思うこと

【道の駅】

- ・雇用が生まれた
- ・活気を感じた
- ・近くで買い物ができるようになり便利
- ・魚や豆腐なども売ると良い
- ・佐川町産にこだわったものを販売してほしい
- ・広場を活用してコンサートなどが行えると良い

【観光・バイカオウレン】

- ・バイカオウレンまつりなどで全国から多くの人が来てにぎわった
- ・他のバイカオウレン群生地と連携できると良い
- ・1日 400 人の対応は限界、担い手が足りない
- ・若い人の参加が少なく、今後が心配
- ・学校でもバイカオウレンに関わる取組をしてくれると、郷土愛が育つ

【健康と福祉】

- ・あつたかができて、高齢者の集いの場が生まれた
- ・地域の活動内容が広まり、拠点ができた
- ・加茂の里を拠点に地域が元気になっていると感じる
- ・百歳体操やかみかみ体操でフレイル予防が進んだ
- ・認知症の方も安心して暮らせる地域を目指してほしい
- ・病院に行くほどでもないことを気軽に相談できる場所がほしい
- ・健康づくりを明るく楽しく誘う工夫があると良い
- ・あつたかが子どもたちも集いやすく、成長につながる場になると良い

この地区での今後 10 年」について考える

『佐川町の玄関として、「水害への対策」「渋滞の緩和」「JR の維持」「人口増加（移住・定住の促進、南海トラフ地震被害の受け皿）」などの取組を行うことで、安心・安全住みたいまち“加茂”』

- ・加茂駅の有効活用
- ・佐川の玄関口は加茂！
- ・JR の駅が日本一近い集落活動センターなので立地を活かしたい
- ・農地付き住宅地があるとよい
- ・野菜作り講座の開催（地元の人と移住者の交流）

『高知市から 30 分の便利な田舎を PR して、企業や移住者を誘致。よくある地名「加茂」を逆手に「全国カモサミット」の開催地となり、人の交流と資金の循環が高まった活力ある地域となる！』

- ・加茂をブランド化！
- ・観光（バイカオウレン・ハナモモ・ヒガンバナ・山野草）
- ・空き家、子育て対策
- ・耕作放棄地の対策
- ・行政区でなく学校区での取組



中学生ワークショップ

未来を担う中学生が、日頃まちについて感じていること、考えていることを拾い上げ、まちづくりへの興味を持つきっかけや、柔軟な発想を活かしてまちづくりについて提案する機会を創出することを目的に、ワークショップを開催しました。

| | |
|-------|--|
| 佐川中学校 | テーマ「10年後の佐川町はこうあってほしい！」 令和6年2月20日（木） 佐川中学校 3年3組 |
| 尾川中学校 | テーマ「尾川を知ってもらい、尾川に来てもらいたい！」 令和6年2月3日（月） 尾川中学校 1年生・2年生 |
| 加茂中学校 | テーマ「10年後の佐川町はこうあってほしい！ ～持続可能な佐川町に向けた中学生のミッション～」 令和6年2月20日（木） 佐川中学校 1年生・2年生 |

佐川中学校

佐川町の自慢できること

- ・桜、川、空気がキレイ、自然が豊か
- ・食べ物がおいしい、観光施設が多い、植物園がある、偉人が多い

佐川町の残念なところ

- ・若い人がいける店が少ない、閉まっている店が多い
- ・街灯や遊べるところ、飲食店が少ない

持続可能な佐川町に向けてのアイデア・自分たちにできること

- ・長期休みに中学生がお店をひらく！
- ・花を植えたりごみひろいのボランティアをしたりする、公園のベンチの色を塗りたい！
- ・仕事体験会をひらく、どうやって佐川を活かしてしくか考える、ずっと住み続ける

尾川中学校

尾川地区の良いところ・自慢できること

- ・みんな仲良し、知らない人もありさつをする、自然がいっぱい
- ・たいこ岩、城跡がある、山登りができる、桜がキレイ、リラックスできる
- ・西の前の川がキレイ！泳げる！
- ・コロッケ、栗がおいしい、「るぼ（ケーキ屋さん）」がある

佐川町全体として取組めば良いこと

- ・買い物できる場所（コンビニ、アイスの自販機）があると良い
- ・運動できる場所ができると良い（チョコザップなど）
- ・災害に強いまちづくり、通学路の安全確保、街灯を増やす

加茂中学校

佐川町の良いところ/ちょっと残念なところ

- ・子どもが元気、地域の人がやさしい
- ・街灯が少ない、子どもが集まる場所がない
- ・お店が少ない、ごみが落ちている

佐川町にあつたら良いもの/なくても良いもの

- ・町で交流して招待運動会の開催、スポーツできる場所があつたら良い
- ・空地、空き家が多くて怖い

持続可能な佐川町に向けた中学生のミッション

- ・加茂駅のクリーンキャンペーン、みんなでJRをもっと利用する、お祭りを手伝う
- ・お店のメニューと一緒に考える、中学生がお店をひらく、手作りのものを売る
- ・SNSで地域の情報発信、ポスターを作って加茂駅をキレイに使ってもらうPRをする

関係団体アンケート

本町において、日頃から各分野で活動されている団体の皆様より、現在抱えている課題やまちづくりに対するご意見等をアンケート形式で伺いました。

まちづくりに関して、今後注力すべき施策や方向性について

【教育】

- ・地域の教育力をもっともっと高め、"子育てしやすいまち" "住みたくなるまち"
- ・学校での防災教育の取組と推進

など

【観光】

- ・観光振興発展のために、新しい観光名所の掘り起こし
- ・牧野公園の植物をもっとまちづくりや観光に活用
- ・仁淀ブルーのクオリティを一層高める観点から、支流の一つである春日川の浄化について考えてみたらどうか

など

【農業】

- ・耕作放棄地が増えているので、農家を育成し、定住してもらうプログラム
- ・若者の農業従事者を増やすための教育機関や農業法人の設立に向けての補助
- ・利用できる農地や家の紹介

など

【産業】

- ・企業誘致による雇用の場づくりを行い、人口増を図り、安心して町内で生活できる仕組みづくり
- ・中山間地域で一定の収入を得ながら、安心して暮らし続けることができる仕組みづくり

など

【まちづくり】

- ・地域の魅力を次世代に伝え、愛着を育み、多世代間交流を促す取組の推進。
- ・住民同士が仲良く語り合え、健康で暮らし、幸せを感じるまち
- ・移住促進や関係人口を増やす取組の推進

など

【健康づくり】

- ・健康づくりのスポーツジムを備え、誰もが集い、利用できる交流拠点の創設
- ・社会参加のきっかけを見出せない方の居場所づくりの拠点へ

など

【共生社会】

- ・すべての人が、自分らしく気持ちよく暮らせる、差別のない風通しの良いまちづくり
- ・ますます増えるだろう外国人労働者への差別のない、誰もが住みやすいまちづくり

など

【安心・安全】

- ・町道の改修や地すべり対策などのインフラ整備など、安心して生活できる環境づくり

など

【行財政】

- ・役場職員が地域へ積極的に関わり、地域に入って現状を把握するとともに、小さな集落の行事も関心を持って、積極的に関わることが大事

など

第3節 総括

「時代の潮流」 「佐川町の現況」 や「町民の声」 を踏まえて、想定される課題等を分野ごとに整理します。

教育

町民アンケートにおける「教育環境」 への満足度が向上しており、これは、さかわ未来学や GIGAスクール構想の導入などの取組が進み、教育を支える基盤が整備されてきたことや、教員や支援員への研修を通じて支援体制が充実してきたことによるものと考えられます。

ふるさと教育の推進により、地元への愛着や誇りが子どもたちの中に醸成されており、将来的な地元定住や地域貢献につながることが期待されます。今後も、ふるさと教育や地域との学び合いを推進するとともに、子ども一人ひとりの多様なニーズに対応できる支援体制の充実が必要です。また、子どもの居場所づくりや学習支援、放課後や休日の活動機会の充実を図ることも重要です。

地域の伝統文化については、継承する担い手が減少しており、次世代への継承に向けた取組の強化が求められます。

県立佐川高校については、存続に向けて魅力化を求める声が多く寄せられています。今後は、高知県や仁淀川町、越知町、日高村などの関係自治体とともに、佐川高校との連携の在り方を検討していくことが重要です。

健康・福祉

平成 30 (2018) 年に「子育てしやすいまち」 宣言を行い、妊娠から出産、子育てまで切れ目のない支援体制を整備してきました。18 歳までの医療費や給食費の無償化、保育料の軽減などの町独自の施策を進めたことで、町民アンケートでも「子育て支援が手厚い」と感じる割合が増加するなど、着実な成果が見られています。ファミリーサポートセンター事業をはじめ、地域ぐるみで子育てを支える取組も広がり、支援の輪が定着してきました。一方で、依然として出生数の減少傾向は続いており、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを一層推進していくことが求められます。

福祉・健康づくりの分野では、あったかふれあいセンター事業により、各地区に誰もが安心して集える福祉拠点の整備が進みました。地域の中心となる住民団体が運営を担うことで、地域の方々のつながりがより深まり、互いに支え合う地域福祉の拠点として定着しています。子どもから高齢者まで、世代を超えて人が集い合う「地域の居場所」として機能し、体操や会話、趣味活動などを通じた交流が広がることで、心身の健康づくりや介護予防・フレイル予防にもつながっています。しかし、高齢化の進行に伴い、地域の支援ニーズは今後さらに多様化・高度化していくことが予想されます。現在のあったかふれあいセンターの体制だけでは十分に対応できなくなる可能性があるため、ボランティアの育成や世代を超えた支え合いの仕組みづくり、運営体制の見直しを進め、持続可能な福祉・健康づくり体制を構築していくことが必要です。

産業・観光

農業・林業・商工業の各分野でも多様な取組を実施し、地域における雇用づくりを進めてきました。しかし、これらの分野では担い手不足や後継者対策が依然として大きな課題となっています。特に農業では、高齢化や担い手不足の影響により耕作放棄地が拡大しており、深刻な状況となっています。また、近年の働き方や職業選択に関する意識の変化に対応するため、町や商工会など関係機関が連携し、柔軟かつ効果的な支援策を展開することが求められています。

観光分野では、牧野公園が整備で観光資源としての魅力が向上しましたし、テレビドラマ効果により「植物のまち」として全国的な知名度が高まりました。また、「まきのさんの道の駅・さかわ」や「佐川おもちゃ美術館」のオープンで、幅広い年齢層が年間を通して楽しめる観光環境も整いました。今後は、地域資源を磨き上げ、観光協会をはじめとした関係機関との連携、デジタルを活用した情報発信を進めることで、にぎわいの創出や消費拡大を図り、地域の稼ぐ力と雇用機会を確保するとともに、町全体の産業基盤と観光の発信力を持続的に高めていくことが必要です。

安全・安心

過去10年間で町内のはば全地区に自主防災組織が整備され、防災体制の基盤づくりが進みました。しかし、活動が停滞している組織も見られます。南海トラフ地震への備えが求められる中で、防災への関心が高まる一方、町民の不安感も強まっており、今後は町民一人ひとりが防災を「自分ごと」として捉え、安心を実感できる地域づくりが求められています。

インフラ整備においては、緊急車両の通行を確保するための道路改良、水道・橋梁など老朽化施設の長寿命化や耐震化を進めており、住宅耐震化と併せた「安全で安心して暮らせる生活環境」の維持・向上をさらに進める必要があります。

地域公共交通サービスとして運行されているぐるぐるバスは、町民の移動手段として定着していますが、利用者の利便性向上を図るため、運行エリアやダイヤの再編など、町民の要望に応じた対応を引き続き進めていく必要があります。

他にも、防犯・防災の観点から、通学路の安全確保や街灯の整備、管理されていない空き家対策など、地域の安全確保のための施策を一層推進していくことが重要です。

まちづくり

人口減少が進む中、地域の誰もが集える活動拠点として集落活動センターが整備され、交流事業やイベントを通じて、子どもから高齢者まで世代を超えたつながりが生まれています。

こうした取組は、地域の絆を深めるとともに、町民同士が支え合う温かい地域づくりへつながっています。一方で、地域活動の担い手の高齢化が進み、活動の継続性が課題となっており、次世代を担う人材の育成や新たな参加者の確保が求められています。今後は、若い世代の参画を促す仕組みづくりや、地域リーダーを育成する体制づくりを進めていくことが必要です。

人口減少への対応としては、移住・定住対策として空き家の活用に取り組んできましたが、移住希望者からは依然として「住まいが見つかりにくい」という声が聞かれます。空き家バンクの登録件数や利用者は増加傾向にあるものの、さらなる利活用を図るためにには、空き家の所有者への働きかけや町内外への積極的な情報発信、移住希望者への支援体制の充実が必要です。

地球温暖化の進行や異常気象の増加など、環境問題への対応も喫緊の課題です。本町では「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、再生可能エネルギーの導入や省エネルギーの推進など、脱炭素・循環型社会の実現に向けた取組を進めています。今後は、行政に加えて町民、事業者、各種団体が一
体となり、環境に配慮した行動を広げることで、地域ぐるみで豊かな自然環境を守り育てていくことが重要です。

行財政

行政ニーズの多様化・高度化が進む中、これらに的確に対応するため、職員の資質向上を目的とした各種研修を継続的に実施してきました。これらの取組は、職員一人ひとりの意識やスキルの向上につながり、組織全体の対応力及び業務の質の向上に寄与しています。今後も、限られた人員や財源の中で効率的な行政運営を推進するため、職員の能力開発及び人材育成を一層強化とともに、デジタル技術を活用したDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進により、業務の効率化と町民サービスの向上を図る必要があります。

また、財政運営においては、限られた財源を有効かつ適正に活用し、収支の均衡を確保しながら、将来を見据えた健全で安定的な行財政運営を継続していくことが求められます。あわせて、安定的な財源確保に向け、ふるさと納税の取組を一層強化し、返礼品の充実や情報発信の工夫を通じて寄附の拡大を図っていく必要があります。

これまで、広報紙やホームページ、SNSなどの多様な媒体を活用し、町政情報や生活に関する有益な情報を積極的に発信してきました。加えて、地区懇談会などを通じて町民の声を直接伺い、地域課題の共有及び解決に努めており、今後も、町民の意見を幅広く収集・反映できる仕組みづくりの推進と、町民参加によるまちづくりの推進を図っていくことが求められます。

第2部 基本構想

第Ⅰ章 佐川町の未来像

第Ⅰ節 佐川町の目指す未来像

前計画では、「チームさかわ まじめに、おもしろく。」を佐川町の未来像に掲げて、その実現に向けた施策を展開してきました。前計画の基本構想の策定から10年が経過し、町民のニーズや行政が対応すべき課題を把握したうえで、町民と行政が一体となり社会の変化に対応したまちづくりを進められるよう、本計画において目指す未来像を次のとおり定めます。

～ 未来像 ～

人と文化が花ひらく、
明るく元気なまち さかわ

この未来像には、佐川町の歴史と文化を基盤に、町民が互いに支え合いながら、活力ある地域社会を築くという願いが込められています。

佐川町は、古くから教育と文化の拠点として発展し、文教のまちとしての誇りを育んできました。近年では、植物分類学者・牧野富太郎博士の生誕地として全国的にも注目を集め、植物や自然、歴史文化を通じた交流や観光の振興が図られています。

地域では、人口減少や高齢化が進む中でも、伝統行事や集落活動センターの取組などを通じて、いろいろな分野のボランティア活動が行われ、町民一人ひとりが支え合い、多世代が関わりあいながら地域コミュニティーを守り続けています。こうした取組をさらに進めながら、町民一人ひとりが心身ともに健康で、地域の中で生きがいを感じながら、世代を超えて笑顔とつながりが広がる、温かく安心できる地域社会を目指します。

人が育ち、文化が育まれるまちとして、元気な人々の笑顔と活力が地域の原動力となり、教育・福祉・産業・観光など、あらゆる分野で花ひらく未来を表しています。

第2節 佐川町の人口ビジョン

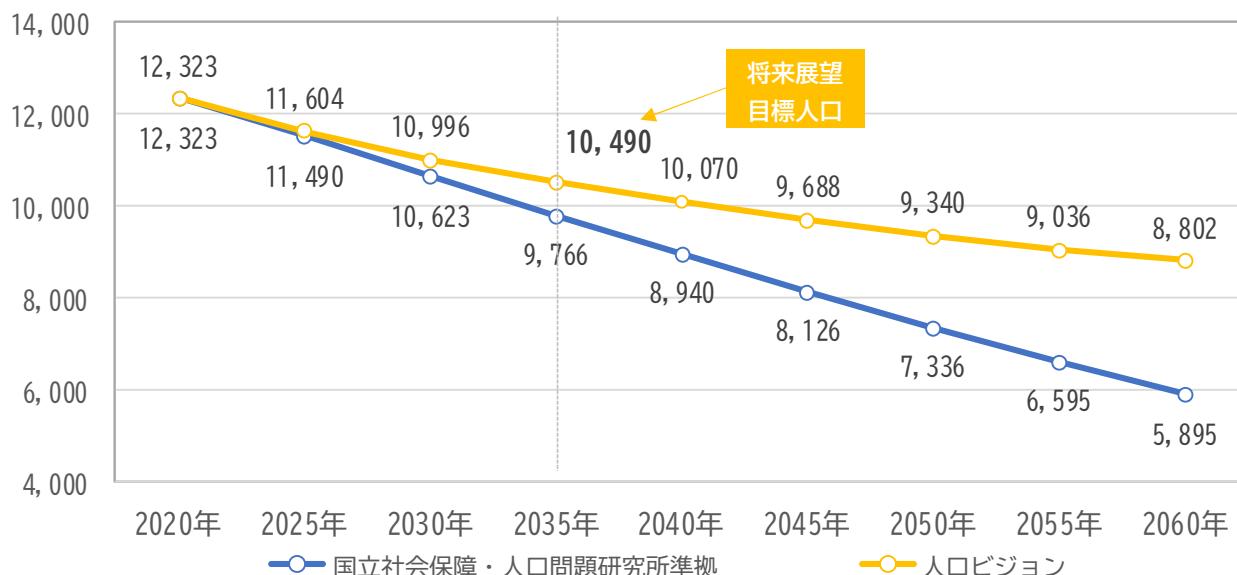
国勢調査によると、佐川町の人口は1985年（昭和60年）の16,124人をピークに減少傾向が続いており、2020年（令和2年）には12,323人となっています。

佐川町の将来人口について、社人研（※）準拠の人口推計では、2060年（令和42年）には、人口が約5,900人まで減少すると見込まれています。

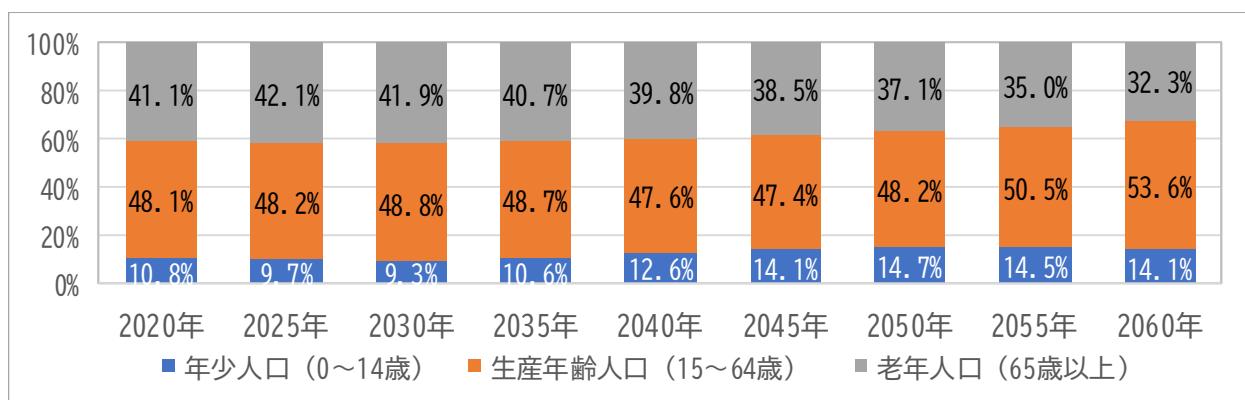
こうした状況を踏まえ、総合計画に併せて策定する人口ビジョンでは、人口の維持に計画的に取り組むこととし、2060年（令和42年）までに約8,800人の将来展望を目指すとともに、基本構想・基本計画の目標年度である2035年（令和17年）年の目標人口を10,490人と設定します。

※社人研：国立社会保障・人口問題研究所

■人口推計



■年齢3区分別人口割合の将来推計



| 単位：人 | 2020年 | 2025年 | 2030年 | 2035年 | 2040年 | 2045年 | 2050年 | 2055年 | 2060年 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 老人人口 | 5,069 | 4,882 | 4,609 | 4,268 | 4,011 | 3,725 | 3,459 | 3,161 | 2,841 |
| 生産年齢人口 | 5,927 | 5,598 | 5,364 | 5,114 | 4,789 | 4,596 | 4,505 | 4,566 | 4,719 |
| 年少人口 | 1,327 | 1,124 | 1,023 | 1,108 | 1,270 | 1,367 | 1,376 | 1,309 | 1,242 |

第2章 未来を実現する政策方針

第1節 基本方針

未来像を実現するための政策を進めるに当たり、次の2つの基本方針を定め、まちづくりの方向性とします。

（1）持続可能なまちづくり

佐川町には、先人から受け継がれてきた歴史や文化、人と人との温かなつながり、そして豊かな自然があります。これらは町の歩みを支えてきたかけがえのない財産であり、決して一過性の取組によってなされたわけではありません。一つひとつの取組が将来を見据えて、それぞれの時代に対応しながら紡いできたものです。

今、人口減少社会の進展やライフスタイルの多様化が進む中で、持続可能性を意識した取組がますます重要となります。これまで育まれてきた佐川の歴史や文化、自然、人のつながりを礎として、変化の時代に対応しながら、次の世代へとまちの魅力と力をつないでいく取組、つまり持続可能なまちづくりがあらゆる分野で求められています。

個々の取組はたとえ小さくとも、持続可能な仕組みや制度を取り入れて政策を進めることで、未来像の実現を目指します。

（2）町民と歩むまちづくり

人口減少や少子高齢化が進む中で、地域を取り巻く課題は複雑化・多様化しています。こうした課題に対応し、持続可能なまちづくりを進めていくためには、行政だけでなく、地域に暮らす町民や団体、事業者などが互いに力を合わせることが欠かせません。

まちの現状や課題を共有しながら、協力し合うことで、より実効性のある取組が生まれます。行政は、町民が活動しやすい環境を整え、地域の主体的な取組を支援し、町民は自らのまちを支える担い手として、ともに歩み進めます。

町民と行政が同じ未来を見据え、思いを重ねながら力を合わせることで、誰もが誇りと愛着を持って暮らせる佐川町を築くことができます。

第2節 分野毎の政策方針

（1）教育

これまで佐川町が培ってきた「文教のまち」を継承しながら、学校・家庭・地域が連携して学びと郷土愛を深めるとともに、文化・スポーツを推進していきます。

（2）健康・福祉

誰もが健やかに過ごすことができるよう、子育てや健康づくり、医療介護などの取組や支援を進め、地域で安心して暮らし続けられるまちづくりを推進します。

（3）産業・観光

これから佐川町の産業を担う担い手の育成を図るとともに、地域の産業の活性化を推進します。また、豊かな地域資源を活用し、町の魅力と元気を創出します。

（4）安全・安心

町民の命と財産を守るため、防災・減災対策を進めます。また、防犯や交通安全対策を強化し、誰もが安全で安心して暮らせる環境をつくります。

（5）まちづくり

豊かな自然を次世代に継承しつつ、人と人とのつながりを大切にしたまちづくりを推進していきます。また、人口減少対策に取り組み、持続可能なまちを築きます。

（6）行財政

将来を見据えた健全財政を徹底し、情報共有と広報・広聴を強化します。また、組織・人材力を高めて、町民と役場が一体となってまちづくりを進めます。

第3部 基本計画

第Ⅰ章 分野別の施策体系図

| 未来像 | 基本方針 | 分野 | 政策 | 施策 |
|-----------------------|------------|---------|--|---|
| 人と文化が花ひらく、明るく元気なまちさかわ | 持続可能なまちづくり | 1 教育 | これまで佐川町が培ってきた「文教のまち」を継承しながら、学校・家庭・地域が連携して学びと郷土愛を深めるとともに、文化・スポーツを推進していきます。 | ①ふるさと教育の推進 ②魅力ある学校教育の推進 ③社会教育・生涯学習の充実 |
| | | 2 健康・福祉 | 誰もが健やかに過ごすことができるよう、子育てや健康づくり、医療介護などの取組や支援を進め、地域で安心して暮らし続けられるまちづくりを推進します。 | ①子ども・子育て支援の充実 ②医療・介護・福祉の推進 ③健康づくりの推進 ④障がい児者福祉の推進 ⑤孤独・孤立・生活困窮支援の推進 |
| | | 3 産業・観光 | これから佐川町の産業を担う担い手の育成を図るとともに、地域の産業の活性化を推進します。また、豊かな地域資源を活用し、町の魅力と元気を創出します。 | ①産業振興 ②観光振興 ③担い手対策の推進 ④情報発信の強化 ⑤ふるさと納税の活用 |
| | | 4 安全・安心 | 町民の命と財産を守るため、防災・減災対策を進めます。また、防犯や交通安全対策を強化し、誰もが安全で安心して暮らせる環境をつくります。 | ①南海トラフ地震などの災害への備えの強化 ②防犯・交通安全の推進 ③住民生活を支えるインフラ整備 |
| | | 5 まちづくり | 豊かな自然を次世代に継承しつつ、人と人とのつながりを大切にしたまちづくりを推進していきます。また、人口減少対策に取り組み、持続可能なまちを築きます。 | ①町民参加によるまちづくりの推進 ②共生社会の推進 ③人口減少対策の推進 ④環境保全対策 |
| | 町民と歩むまちづくり | 6 行財政 | 将来を見据えた健全財政を徹底し、情報共有と広報・広聴を強化します。また、組織・人材力を高めて、町民と役場が一体となってまちづくりを進めます。 | ①行財政 ②広報・広聴 ③自治体DXの推進 |

第2章 施策の内容

分野Ⅰ 教育

(1) 政策

これまで佐川町が培ってきた「文教のまち」を継承しながら、学校・家庭・地域が連携して学びと郷土愛を深めるとともに、文化・スポーツを推進していきます。

(2) 成果指標

| 指標名 | 現状 (R6) | 方向性 (R12) |
|-------------------------------|---------|---|
| 町民満足度調査 「教育環境（小中高校）が整っている」 | 46.6% | 基準値から増加  |
| 町民満足度調査 「文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい」 | 25.5% | 基準値から増加  |
| 町民満足度調査 「学びたいことを学べる機会がある」 | 27.6% | 基準値から増加  |

(3) 現状と課題

- ふるさと教育の推進により、地域の歴史や文化を学ぶ機会が充実し、子どもたちの郷土愛や誇りが育まれています。今後も、ふるさと教育や地域との学び合いを推進し、地域に愛着をもち、地元に定住し、地域で活躍する人材の育成を進めていくことが求められます。
- また、コミュニティ・スクール制度の導入により、地域全体で子どもたちを見守り育む体制が整いつつあり、地域のつながりや子どもたちの学びの幅も広がってきています。一方で、協力者の固定化や高齢化が進んでおり、こうした体制を充実・発展させるためには、地域と学校をつなぐ人材を活かすことが重要です。
- 佐川町立図書館「さくと」の開館により、町民が気軽に学べる環境が整い、町民の学びの機会が広がっています。「さくと」は、生涯学習の分野だけでなく、学校教育や様々な分野との連携、既存施設との協働の可能性が広がっており、今後、その活用による多様な取組が期待されます。
- 県立佐川高校については、関係自治体や団体と連携内容を検討していく必要があります。

(4) 施策

①ふるさと教育の推進

| | |
|------|--|
| 概要 | 次代を担う人づくりの視点から、地域の歴史・文化・産業への理解を深め、郷土愛を育てるため、町内的人的・文化的資源を活用したふるさと教育を推進します。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・地域資源を活用した独自のふるさと教育・さくとを中心とした豊かな学びの場の提供・地域と学校との協働の推進 |

②魅力ある学校教育の推進

| | |
|------|---|
| 概要 | かつて名教館で行われていた特色のあるレベルの高い教育を継承し、時代の変化に対応できる未来の担い手を育んでいくため、佐川ならではの独自性のある学校教育を進め、確かな学力の育成を目指します。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・「さかわ未来学」の充実・教職員力と学校力の向上・小中の一貫性の追求と保小の連携の強化・小学校・中学校と、佐川高校との連携強化・子どもの教育環境の整備 |

③社会教育・生涯学習の充実

| | |
|------|--|
| 概要 | 幅広い年齢層が参加できるスポーツ・文化活動等の生涯学習の機会を充実させます。また、既存の活動団体との連携を深め、スポーツ・文化活動の機運を高めます。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・多種多様な生涯学習の機会と活動の場の提供・学びの拠点となる施設を活かした生涯学習ニーズへの対応・スポーツ活動の推進・伝統文化、文化芸術の担い手の育成・支援・文化財を保護・継承する意識の醸成と活用 |

分野2 健康・福祉

(1) 政策

誰もが健やかに過ごすことができるよう、子育てや健康づくり、医療介護などの取組や支援を進め、地域で安心して暮らし続けられるまちづくりを推進します。

(2) 成果指標

| 指標名 | 現状 (R6) | 方向性 (R12) |
|---------------------------------|---------|---|
| 町民満足度調査 「子育て支援・補助が手厚い」 | 46.6% | 基準値から増加  |
| 町民満足度調査 「介護・福祉施設のサービスが受けやすい」 | 24.9% | 基準値から増加  |
| 町民満足度調査 「医療機関が充実している」 | 37.3% | 基準値を維持  |

(3) 現状と課題

- 給食費や保育料の無料化など、経済的支援を中心に、この10年間で子育て支援は飛躍的に充実しました。また、高齢者福祉や健康づくりについても、あったかふれあいセンター事業に代表されるように、地域一体となった取組が進み、介護保険料が抑制されるなど、成果が上がっています。障がいがある人の支援については、発達障害に対する認知度向上などもあり、ニーズが高まる一方で、サービスの受け皿としての社会資源が不足しています。
- 加速化する少子化に少しでも歯止めをかけるため、妊娠から子育てまでの切れ目のない支援を一層充実させ、安心して子どもを産み、育てることができる環境を整えていくことが必要です。
- 高齢化や過疎化が進む中で、個人はもちろん、地域での健康づくりや介護予防の取組は、住み慣れた地域において健康で、その人らしい生活を続けていくためにも大変重要で、引き続き、健康づくりや介護予防等の取組を進めていく必要があります。
- また、公的なサービスを維持するために、介護・医療・福祉の分野における人材確保策を講じる必要があります。

(4) 施策

①子ども・子育て支援の充実

| | |
|------|--|
| 概要 | 次世代を担う子どもたちを安心して、産み育てられる環境づくりを推進します。また、子育てを地域ぐるみでサポートする体制づくり、子どもと子育て世帯にやさしい環境づくりを進め、地域全体で子育てを後押しします。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・まち全体で子育てる環境づくり・ライフプランの実現に向けた環境づくり・希望ある健やかな成長に向けた環境づくり・すべての子育て家庭を守り支える環境づくり |

②医療・介護・福祉の推進

| | |
|------|--|
| 概要 | 高齢者が、住み慣れた地域で生きがいを持って、自分らしい暮らしを安心して続けられる社会の実現を推進します。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・いきいき健康づくりの支援・あんしん福祉サービスの充実・まごころ地域ケアの推進・介護保険制度の持続可能性の確保 |

③健康づくりの推進

| | |
|------|---|
| 概要 | 誰もが健康でいきいきと活躍し続けられるよう健康づくりの活動を支援します。生活習慣病を予防し、健康な生活を送ることができるよう、意識啓発や情報発信を強化します。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・豊かな食生活の実践・運動機会の充実と環境づくり・健（検）診受診の促進と生活習慣病の予防・こころの健康づくり |

④障がい児者福祉の推進

| | |
|------|---|
| 概要 | 障がい児者とその家族が、安心して社会生活を営むことができるよう、必要な設備の整備やサービスの向上に取り組みます。また、教育・就労等の機会を充実させるとともに、障がいの有無に関わらず、一人ひとりが役割を持ち、支え合う地域社会の実現に向けた取組を進めます。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・日常生活を支える環境の整備・相談支援体制の充実・教育・就労・社会活動の機会の充実・地域共生社会の実現に向けた環境づくり |

⑤孤独・孤立・生活困窮支援の推進

| | |
|------|--|
| 概要 | 人口減少や高齢化の進展に加えて単身世帯が増加し、地域における人と人とのつながりが弱まっています。高齢者・障がい者・生活困窮者に限らず、年齢や属性を問わず孤独や孤立によって支援を必要とする方を早期に把握し、相談につながる体制を強化します。地域全体で支え合う環境づくりを進め、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指します。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・孤独・孤立のおそれがある町民の早期把握と相談支援体制の強化・集落活動センター、あったかふれあいセンター、社会福祉協議会、民生委員等との連携による支援の推進・居場所づくりや地域交流の促進による孤独・孤立の予防と支え合いの強化 |

分野3 産業・観光

(1) 政策

これから佐川町の産業を担う担い手の育成を図るとともに、地域の産業の活性化を推進します。また、豊かな地域資源を活用し、町の魅力と元気を創出します。

(2) 成果指標

| 指標名 | 現状 (R6) | 方向性 (R12) |
|-------------------------------|-----------|---|
| 町民満足度調査 「やりたい仕事を見つけやすい」 | 6.4% | 基準値から増加  |
| 町民満足度調査 「適切な収入を得るための機会がある」 | 12.4% | 基準値から増加  |
| 町民満足度調査 「景観や街並みの美しさ」 | 23.0% | 基準値から増加  |
| 観光客の入り込み客数 | 100,000 人 | 基準値を維持  |

(3) 現状と課題

- 町の基幹産業である農業や、林業や商業等、担い手不足や後継者不足対策が大きな地域課題となっています。また、近年の職業選択や働き方に対する意識の変化により、多様で柔軟な雇用環境への対応も求められています。今後は、町と関係機関が連携し、対応や支援を充実させていく必要があります。
- 観光分野においては、テレビドラマの効果により「植物のまち」としての認知度は高まりました。また、「まきのさんの道の駅・さかわ」や「佐川おもちゃ美術館」という新たな施設も注目されています。さらなる魅力向上のために、自然や歴史、文化と地域資源の磨き上げや、観光協会をはじめとする関係機関との連携の強化、関係人口との増加や移住・定住につながるような情報発信等が求められています。

(4) 施策

| ①産業振興 | |
|-------------|--|
| 概要 | 後継者不足、担い手不足への対応を行うとともに、佐川町での農業、林業、商工業等がやりたい仕事として選ばれ、安定的に収入が得られる仕事となるよう、関係機関と連携して取り組んでいきます。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・農業基盤整備の推進・農業の生産性及び所得向上への支援・持続可能な森林整備による所得向上の仕組みづくり・放置されている森林資源の一元管理と適切な森林整備の継続・スマールビジネスや空き店舗等を活用した起業支援による商工振興 |

| ②観光振興 | |
|-------------|--|
| 概要 | 「植物のまち」としてのブランド力を一層高めるとともに、自然や歴史、文化等の観光素材を継続的に磨き上げます。また、観光協会や関係機関と連携しながら新たなツールを活用した情報発信を行い、関係人口の増加や移住・定住につながるような取組を行います。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・観光協会・行政・町民が一体となった観光客受け入れ環境の整備・「植物のまち」としての認知度のさらなる向上・歴史的な資源や街なみの維持・管理・活用・交流人口を拡大する取組の実施・地域資源の磨き上げと活用 |

| ③担い手対策の推進 | |
|-------------|--|
| 概要 | 農業・林業・商工業を推進・発展させ、未来へつなげるために、町民はもとより移住者も含めて、担い手を確保し、後継者の育成を推進します。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・一次産業に従事する地域おこし協力隊の雇用・各産業分野の新規参入者への支援・農商工の基盤継承の推進・事業承継の推進 |

④情報発信の強化

| | |
|------|--|
| 概要 | 町の魅力を効果的に広く伝えるため、様々なデジタルツールを活用し戦略的な情報発信を進めます。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・デジタルツールの積極的活用・多言語・多様な媒体への対応・産業と観光の一体的PR |

⑤ふるさと納税の活用

| | |
|------|--|
| 概要 | ふるさと納税は、町の財源確保だけでなく、地域資源の魅力発信において重要な役割を担っています。返礼品の開発や品質向上を支援するとともに、寄附者との交流や情報提供を通じて、関係人口の拡大や地域経済の活性化につなげます。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・新規返礼品の開拓とブラッシュアップ・SNSを活用した情報発信とポータルサイトの効果的な活用・リピーター・関係人口の拡大・地元事業者との連携強化・企業誘致の検討と新規事業者の開拓、育成 |

分野4 安全・安心

(1) 政策

町民の命と財産を守るために、防災・減災対策を進めます。また、防犯や交通安全対策を強化し、誰もが安全で安心して暮らせる環境をつくります。

(2) 成果指標

| 指標名 | 現状 (R6) | 方向性 (R12) |
|--|---------|--|
| 町民満足度調査 「地区の防災対策がしっかりしている」 | 56.9% | 基準値から増加  |
| 町民満足度調査 「防犯対策が整っており、治安がよい」 | 57.7% | 基準値から増加  |
| 町民満足度調査 「公共交通機関で、好きなときに好きなところへ移動ができる」 | 21.4% | 基準値から増加  |

(3) 現状と課題

- 近い将来、高い確率で発生が危惧されている南海トラフ地震に対する町民の防災意識が高まっています。建物の耐震化や老朽住宅除去事業等の取組を進めてきましたが、今後も引き続き着実に推進するとともに、家庭内や地域における防災啓発を一層推進していく必要があります。
- 道路、水道、橋梁などの重要インフラについては、これまで長寿命化や耐震化に取り組んできましたが、安全で安心して暮らせる生活環境の維持・向上を図るため、今後も引き続き計画的なインフラ整備を実施していく必要があります。
- 地域公共交通では、さかわぐるぐるバスが地域の移動手段として定着しつつありますが、利用者の利便性向上や、地域の実情に応じた新たな交通手段の導入も求められます。
- 防犯・交通安全の分野では、通学路の安全確保や街灯の整備等を進めているものの、交通事故防止や犯罪抑止に向けた取組の強化が必要です。関係機関と連携しながら、地域の安全確保のための施策を一層推進していくことが重要です。

(4) 施策

①南海トラフ地震などの災害への備えの強化

| | |
|------|--|
| 概要 | 近い将来、高い確率で発生する南海トラフ地震や風水害による被害を最小限にするため、住宅の耐震化や啓発活動にも取り組み、地震や災害に強い町づくりを進めます。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・一般住宅の耐震化の促進・上水道老朽管路の更新と耐震化・拠点避難所の機能強化・消防団の育成、支援・防災施設の整備、充実・自主防災組織の活性化・防災訓練や防災学習会の促進 |

②防犯・交通安全の推進

| | |
|------|--|
| 概要 | 交通事故と犯罪のない、安全・安心な町づくりのため、関係機関と連携し、道路環境の整備や交通安全意識の啓発に努めるとともに、近年多発する特殊詐欺、悪質商法等から消費者を保護し、被害を未然に防止する対策に取り組みます。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・交通危険箇所の解消・消費者保護対策の推進・交通安全意識の普及啓発 |

③町民生活を支えるインフラ整備

| | |
|------|--|
| 概要 | 道路や水道、学校、公民館等の町民生活を支える公共財産を最適に維持管理するため、公共財産の管理計画に基づき、インフラ整備に取り組みます。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・道路、橋梁の長寿命化計画の推進・水道事業経営計画の策定と推進・水道未普及地解消の取組・公共住宅を中心とした住環境の整備・地域公共交通の利便性向上の推進 |

分野5 まちづくり

(1) 政策

豊かな自然を次世代に継承しつつ、人と人とのつながりを大切にしたまちづくりを推進していきます。また、人口減少対策に取り組み、持続可能なまちを築きます。

(2) 成果指標

| 指標名 | 現状 (R6) | 方向性 (R12) |
|--|----------|--|
| 町民満足度調査 「リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組が盛んである」 | 23.5% | 基準値から増加  |
| 町民満足度調査 「地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への参加が盛んである」 | 36.4% | 基準値から増加  |
| 町民満足度調査 「この地区に対して愛着を持っている」 | 63.9% | 基準値から増加  |
| 人口の社会増減 | 令和6年度の実績 | ± 0人  |

(3) 現状と課題

- 人口減少や少子高齢化の進行により、地域活動の担い手不足やコミュニティの維持が課題となっています。持続可能なまちを実現するためには、若い世代の定住促進や出生率の向上に向けた取組とともに、多様な価値観や個性を認め合い、誰もが自分らしく安心して暮らせる共生社会を築いていくことが求められます。また、行政サービスの質を維持し、町民生活の利便性を高めるためには、デジタル技術を活用した効率化や地域課題の解決が不可欠です。さらに、持続可能な環境を次世代へ引き継ぐため、再生可能エネルギーの導入や省エネルギーの推進を進め、ゼロカーボンシティの実現を目指すことが必要です。

(4) 施策

①町民参加によるまちづくりの推進

| | |
|------|---|
| 概要 | 町民一人ひとりがまちづくりに主体的に関わり、地域の課題解決や魅力づくりに参加できる社会を目指し、安心で住みやすい地域づくりを推進します。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・協働によるまちづくりの推進・地域活動団体の運営支援・集落活動センターやあったかふれあいセンターの運営・佐川高校との連携 |

②共生社会の推進

| | |
|------|--|
| 概要 | 佐川町に暮らすすべての人が互いに尊重し合い、安心して暮らせる社会を目指します。文化や価値観の違いを理解・尊重し、多様な人々が共に生活できる環境づくりを進めます。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・多文化共生の推進・多様性を認め合う暮らしやすい環境づくり・人権尊重・男女共同参画の推進 |

③人口減少対策の推進

| | |
|------|--|
| 概要 | 人口減少対策として、「若年人口の増加」「婚姻数の増加」「出生率の向上」に向けた取組を推進します。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・若者・子育て世帯の支援・出会いや結婚の支援・関係人口の拡大・移住定住の推進・空き家活用を含めた住環境の整備・佐川高校の魅力化に向けた支援 |

④環境保全対策

| | |
|------|---|
| 概要 | ゼロカーボンシティの取組を推進することで、豊かな自然環境、心地よい生活環境の保全と地域経済発展の両立を目指し、持続可能な地域づくりを推進していきます。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・家庭や事業所での省エネルギーの普及・生活環境の維持保全・再生可能エネルギーの導入促進・森林など自然環境の適切な管理・保全の実施・環境学習などによる意識の醸成 |

分野6 行財政

(1) 政策

将来を見据えた健全財政を徹底し、情報共有と広報・広聴を強化します。また、組織・人材力を高めて、町民と役場が一体となってまちづくりを進めます。

(2) 成果指標

| 指標名 | 現状 (R6) | 方向性 (R12) |
|-----------------------------------|---------|--|
| 町民満足度調査 「行政は地区のことを真剣に考えていると思う」 | 23.1% | 基準値から増加  |
| 町民満足度調査 「行政サービスのデジタル化が進んでいる」 | 12.8% | 基準値から増加  |
| 町民満足度調査 「公共施設は使い勝手がよく便利である」 | 27.1% | 基準値から増加  |

(3) 現状と課題

- 行政に求められるニーズは多様化・高度化しており、職員研修を通じて組織の対応力や業務の質の向上に努めてきました。今後も、人材育成の強化やDXの推進により、効率的な行政運営と町民サービスの向上を図る必要があります。
- 財政面においては、限られた財源を有効かつ適正に活用し、収支の均衡を確保するとともに、将来を見据えた健全で安定的な行財政運営を継続していくことが求められます。
- また、広報紙やホームページ、SNSなどを活用して町政や生活に関する情報を発信するとともに、懇談会などで町民の声を直接聴き、地域課題の共有・解決に努めてきました。今後も、町民の意見を反映できる仕組みを整備し、町民参加型のまちづくりを推進していくことが求められます。

(4) 施策

| ①行財政 | |
|------|--|
| 概要 | 自主財源に乏しい財政状況の中、地域課題や目まぐるしく変化する社会状況に対応するため、将来を見据えた安定的な財政運営に取り組みます。多様化する町民ニーズを的確に把握しつつ、中長期的な財政の健全性を確保していくことが重要となります。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・役場職員の能力強化・将来を見据えた財政運営・コンプライアンスの徹底 |

| ②広報・広聴 | |
|--------|--|
| 概要 | 広報誌やホームページ等の内容充実と利便性の向上を図り、行政と町民が情報を共有することで町づくりに一体となって取り組む体制を構築します。また、広聴体制を充実させるため、地域での意見聴取の機会を継続的に実施します。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・広報誌の充実・広報媒体の多様化・SNS 等の活用による双方向システムの検討・地区懇談会の開催 |

| ③自治体 DX の推進 | |
|-------------|---|
| 概要 | デジタル技術を活用して行政サービスの効率化・高度化と町民の利便性の向上を推進します。 |
| 取組内容 | <ul style="list-style-type: none">・デジタルを活用した業務効率化・町民の利便性向上 |